
アンケート調査結果まとめ

市民意識調査（18歳以上）

市民意識調査（若者・子育て世帯）

中学生アンケート

1. アンケート調査概要

第6次犬山市総合計画の策定に向けて実施した以下の3つのアンケート調査を用いて、市民の定住意向の実態や、定住意向の背景と考えられる事項について分析します。

①第6次犬山市総合計画策定に向けた市民意識調査結果

項目	内容
調査対象	犬山市に居住する18歳以上の市民
調査方法	郵送配布、回収は郵送とwebを併用
調査時期	令和3年7月20日～8月6日
配布数	3,000票
回収票数	1,782票（郵送：1,377/web：405）
回収率	59.4%

②第6次犬山市総合計画策定に向けた市民意識調査結果（若者・子育て世代）

項目	内容
調査対象	犬山市に居住する15歳から39歳までの市民
調査方法	郵送配布、回収は郵送とwebを併用
調査時期	令和3年7月20日～8月6日
配布数	3,000票
回収票数	1,390票（郵送：697/web：693）
回収率	46.3%

③中学校まちづくりアンケート

項目	内容			
調査対象	犬山中学校、城東中学校、南部中学校、東部中学校			
調査方法	Web回答			
調査時期	令和3年7月2日～9月27日			
	犬山中学校	城東中学校	南部中学校	東部中学校
依頼配布数	698票	540票	446票	362票
回収票数	582票	495票	425票	329票
回収率	83.4%	91.7%	95.3%	90.9%
全体回収率	1,831/2,046=89.5%			

本資料では、これ以降、調査①を参照した記載には「○」、調査②を参照した記載には「△」、調査③を参照した記載には「◇」を文頭に記載しています。

【標本誤差】

各種アンケートでそれぞれ一定数の回答を得ていますが、これがどの程度の精度を持った回答結果であるかを示す指標として「標本誤差」があります。標本誤差の範囲は、信頼度 95%とした場合、次表のように算出されます。基準値からの比較等には次表を加味してください。

例えば「回答数が 100、回答比率が 60%であった場合、この回答比率の誤差の範囲は±9.6%以内（50.4%～69.6%）である」とみることができます。

比較する際に、特に回答数（n）が小さいものは、誤差が大きいため考察の対象外とし、回答数（n）が小さいもの同士では、傾向をみることにします。

標本誤差の早見表（信頼度 95%）

回答数 (n)	回答比率				
	10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
10	±18.6%	±24.8%	±28.4%	±30.4%	±31.0%
50	±8.3%	±11.1%	±12.7%	±13.6%	±13.9%
100	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%
200	±4.2%	±5.5%	±6.4%	±6.8%	±6.9%
500	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
1000	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
1500	±1.5%	±2.0%	±2.3%	±2.5%	±2.5%

- ・お住まいの地区で「池野地区」と回答した人は 34 名となっており、他の地区に比べて票数が少ないため、地区別のクロス集計結果において池野地区は考察の対象外とします。
- ・性別で「その他」と回答した人は市民意識調査で 2 名、市民意識調査（若者・子育て世代）で 9 名と少数であるため、言及しないものとします。

【その他事項】

- ・学生はおつとめの状況で「学生」と回答した人、その中で高校生は、通っている学校で「高等学校」と回答した人、大学生等は「4 年制大学」「短期大学」「専門学校」「大学院」と回答した人として集計しています。

2. 分析結果のまとめ

定住に関する分析

- 定住意向を持つ人は増加傾向にあるものの、若い世代では、「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」と回答した人が多くなっています。【P5、P6】
- 学生では、「今後も犬山市に住みたいと思いますか（希望する就職先、進学先に行けると想定してお答えください）」という設問に、「今はわからない」と回答した人が最も多くなっています。また、女性では男性よりも「今は分からない」と回答した人多くなっています。男性よりも女性の方が進学、就職だけでなく、結婚、出産といったライフステージでの引っ越しを念頭に入れていると推察されます。【P8】
- 学生では、女性よりも男性の方が「住みたくない」と回答した割合が多く、進学・就職先が市内に見つからないことが一つの理由だと考えられます。【P8、P19】
- 持ち家の人では定住意向が高いことから、住宅取得の際に犬山市に住宅が見つければ住み続けることになるものと推察されます。【P9 上表】
- 学生では、「住みたい理由」として、まちへの「愛着」や「家族との同居・近居」、「住みやすい」を選ぶ学生が多い傾向にあります。一方で、回答数が少ないので、参考となりますが、「住みたくない理由」としては「突出した魅力を感じない」、「就職先、進学先がない」を理由としている人が多い傾向にあります。【P14 下表～P15、P19】
- 18歳以上全体を見ても、まちに対する愛着を感じる人は住み続けたいと思う人が多く、定住促進にあたっては、愛着の醸成が有効と考えられます。【P10、P14～15】
- 若者では、住み続けるために必要なこととして、「商業施設を増やすこと」、「子育て環境が充実していること」、「働く場があること」が多く選ばれています。【P20】

定住促進に係る事項に関する分析

1) 就職について

- 就職等の希望地域を犬山市以外と回答した人でも、犬山市内に就職先があれば住み続けるという学生が多くなっています。【P25】
- 製造業を希望する男性が多いことから、市内製造業に対する認知を進めることで定住を促すことが期待できます。【P22 左表】

- 女性については市内の産業集積とのミスマッチがあると考えられ、女性が就職を希望する職種の上位であるサービス業の誘致が有効と考えられます。【P22 右表】

2) 居住環境（住環境、都市基盤、買い物環境等）について

- 住環境、道路等のインフラ整備、公共交通の利便性、買い物環境については評価しない人の方が多くなっています。【P26 上表、P27 上表、P28 上表、P29 上表、P30 上表】

- 住環境の整備状況や道路等のインフラ整備状況、公共交通の利便性、買い物環境に対する実感が定住意向に対して影響していると考えられます。住み続けたいと思わない理由とも合致しており、定住したいと思う人を増やすための施策として有効と考えられます。なお、地区による大きな違いは見られず、特定の地区を対象として取り組むことをアンケートからは導くことはできませんでした。

【P16～17、P26 下表、P27 下表、P28 下表、P29 下表、P30 下表】

3) 愛着、地域のつながりについて

- 年齢にかかわらず、まちに対して愛着を感じている傾向があります。また、居住年数が1年未満の人でも約6割が愛着を感じており、居住年数にかかわらず愛着を感じる割合は多くなっています。なお、居住年数が長くなるにつれて、愛着を感じる割合は高くなる傾向にあります。【P33～34 上表】

- 愛着と、近所の人との付き合いの有無や地域活動への参加の有無は関係していると考えられます。【P41 下表～P42】

2. 定住に関する分析

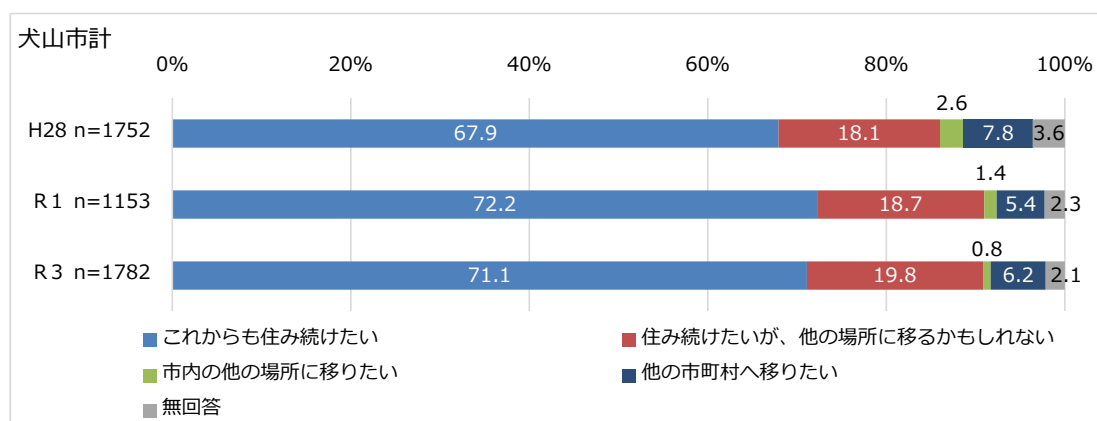
1) 定住意向

①定住意向の変化

○これからも犬山市に住み続けたいと思う人（「これからも住み続けたい」「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」「市内の他の場所に移りたい」の合計）は約92%で、平成28年度からは減少し、令和元年と同率となっています。

○ただし、「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」が約20%となっており、平成28年度から増加傾向にあります。

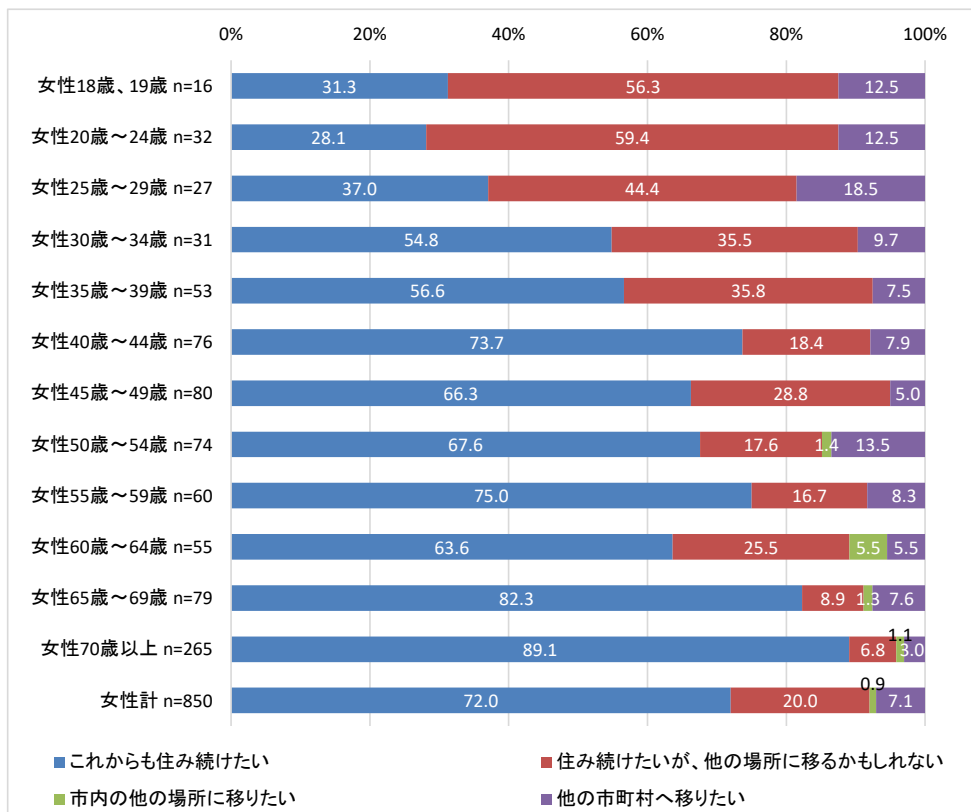
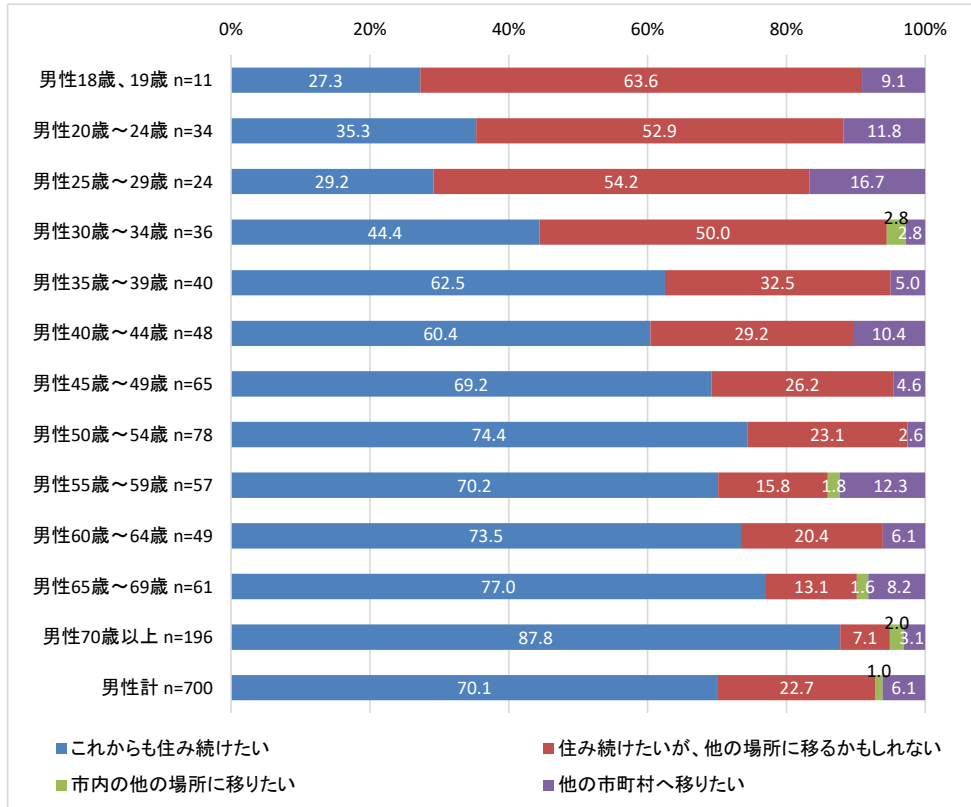
▼定住意向の変化



②年代からみた定住意向

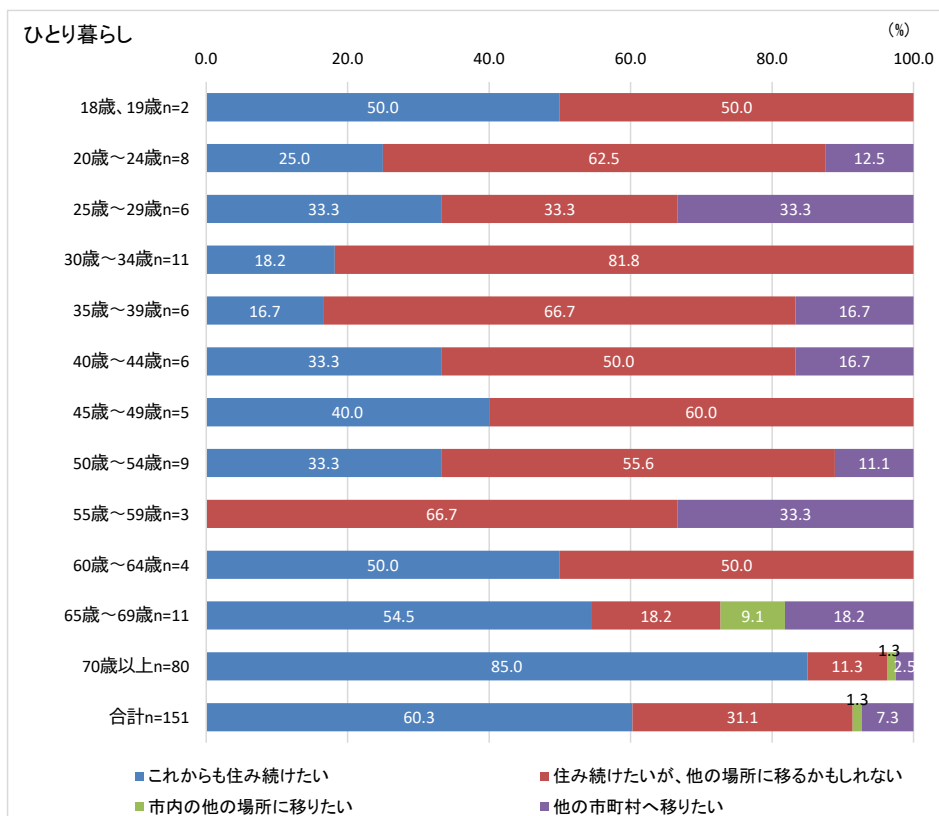
○犬山市への定住意向について、各年代の回答数が少なく断定はできないものの、男性では34歳以下、女性では29歳以下の年代で「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」が、「これからも住み続けたい」よりも多い傾向がみられます。それよりも上の年代では、「これからも住み続けたい」の方が多くなる傾向があります。

▼性別×年代×定住意向

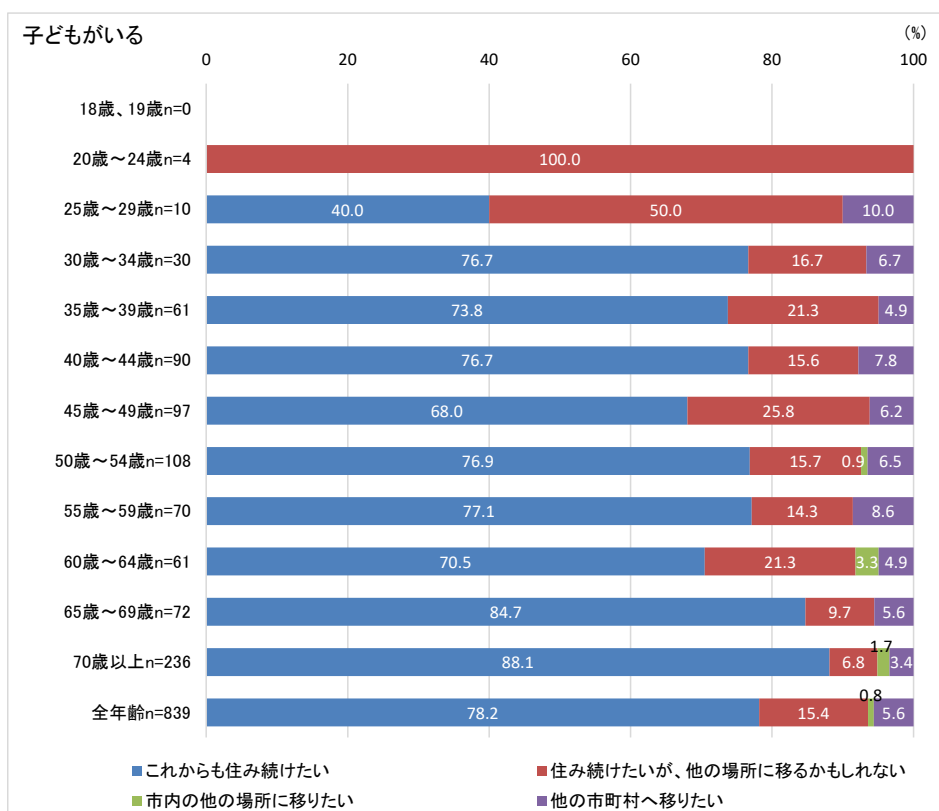


○犬山市への定住意向について、各年代の回答数が少なく断定はできないものの、ひとり暮らしの人では、59歳以下の各年代では「これからも住み続けたい」が少なく、子どもがいる人では30歳以上になると「これからも住み続けたい」が多い傾向がみられます。

▼年代×ひとり暮らし×定住意向



▼年代×子どもがいる×定住意向

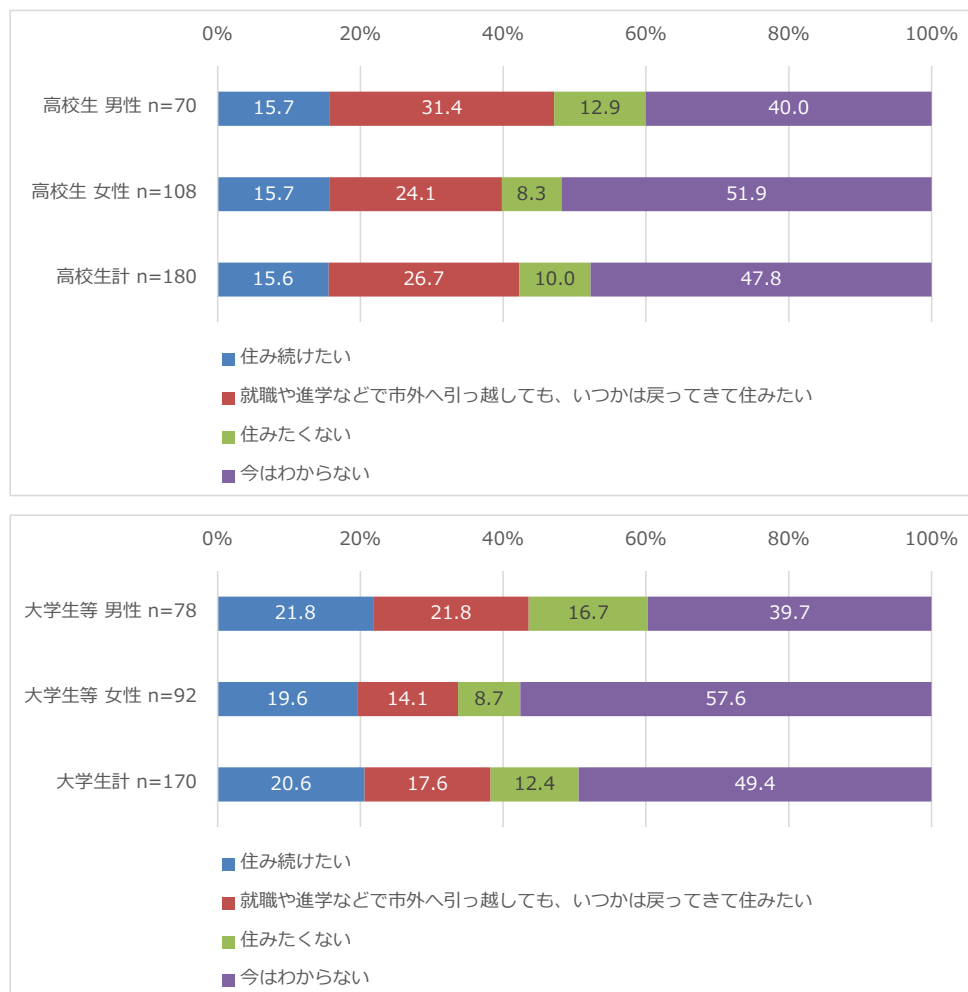


△犬山市への定住意向について、高校生、大学生等ともに男性・女性とも「今はわからない」が最も多く、「住み続けたい」は「住みたくない」よりも多くなっています。

△高校生・大学生等ともに「今はわからない」は男性より女性の方が多く、「住みたくない」は女性よりも男性の方が多くなっています。

△「就職や進学などで市外へ引っ越しても、いつかは戻ってきて住みたい」は、男性では高校生が約 31%、大学生等が約 22%、女性は高校生が約 24%、大学生等が約 14%となっています。

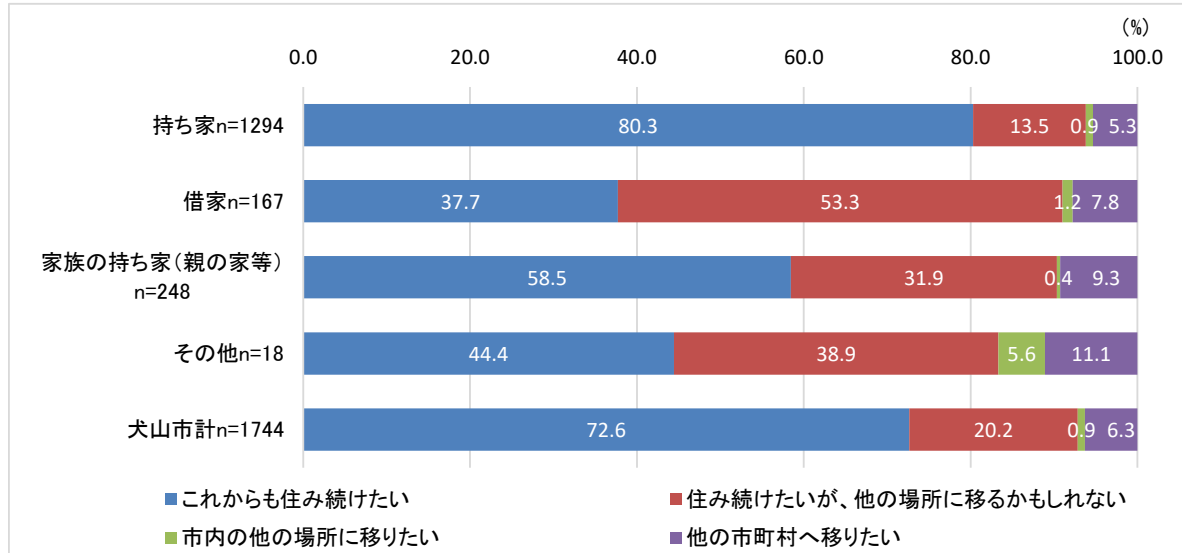
▼性別×学生×定住意向



③住まいの所有形態からみた定住意向

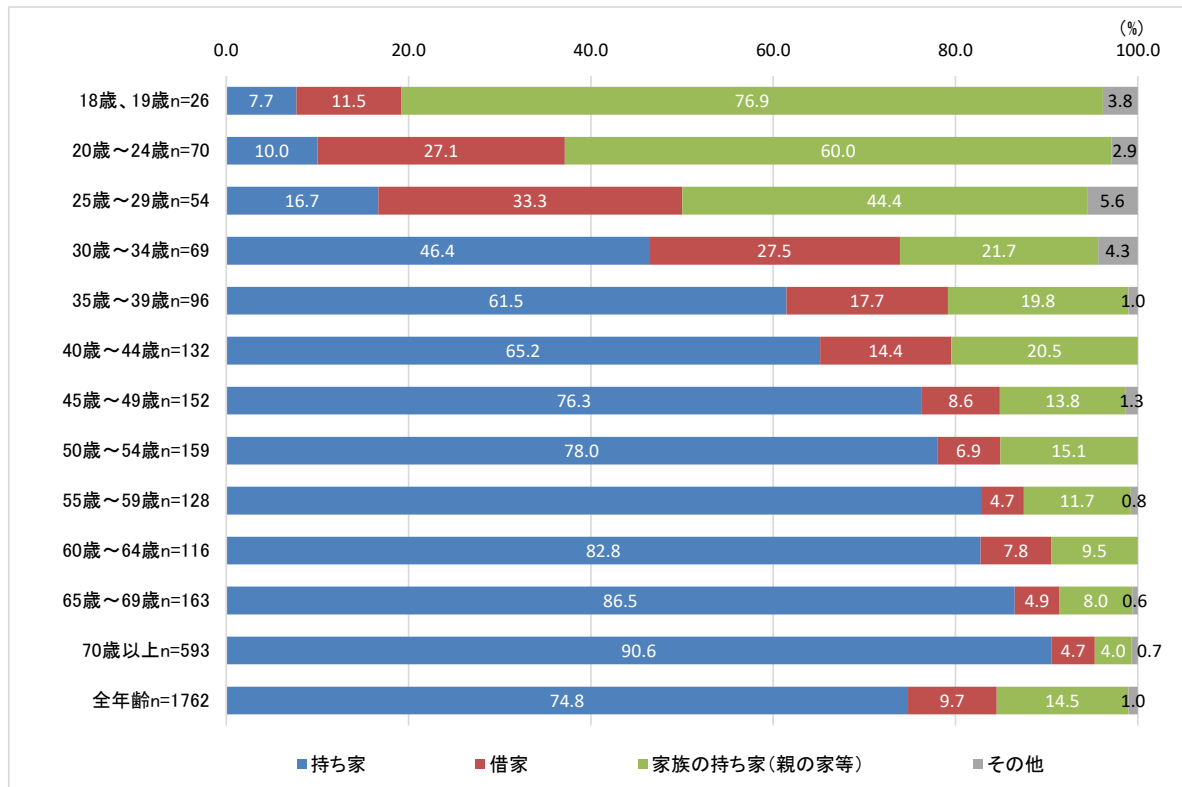
○犬山市への定住意向について、持ち家である場合は「これからも住み続けたい」(約 80%) が最も多くなっていますが、借家である場合は「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」(約 53%) が最も多くなっています。

▼住まいの所有形態×定住意向



○持ち家である人の割合は、回答数が少ない年代があるため参考となりますが、29 歳未満では 1 割台であるのに対して、30～34 歳で約 46%と増え、それ以上の年代では 6 割を上回っています。

▼年齢×住まいの所有形態

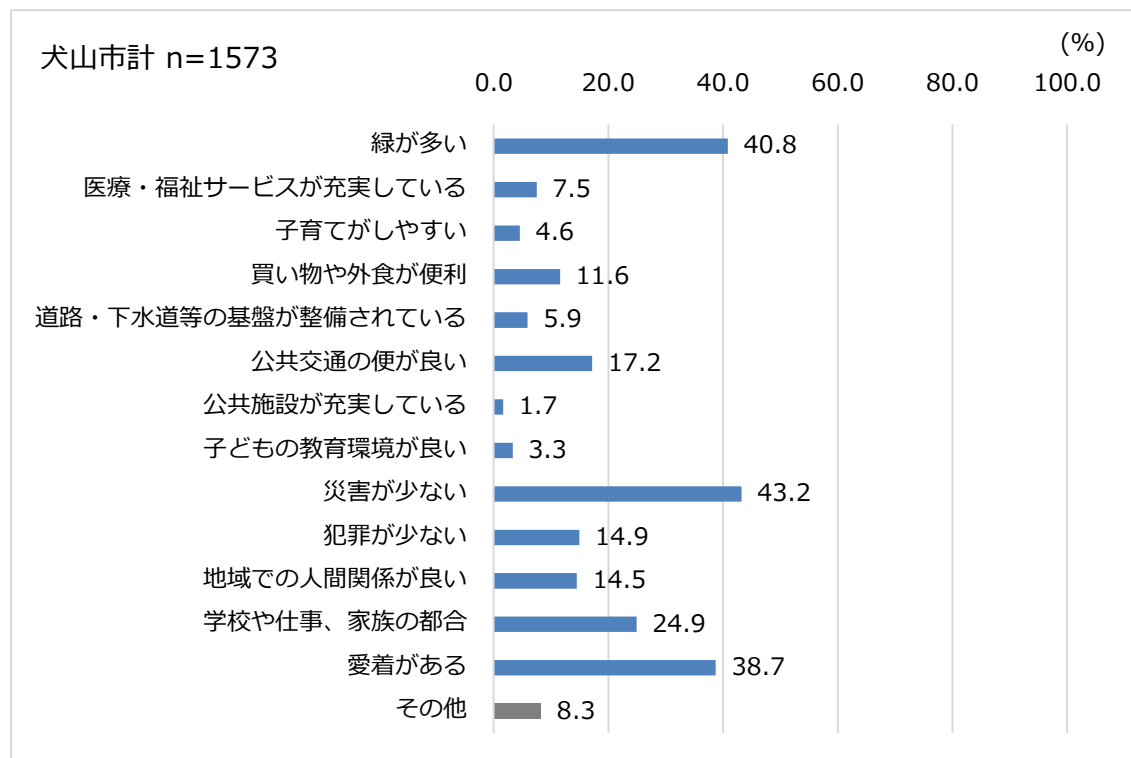


2) 定住したい理由、定住したくない理由

①定住したい理由

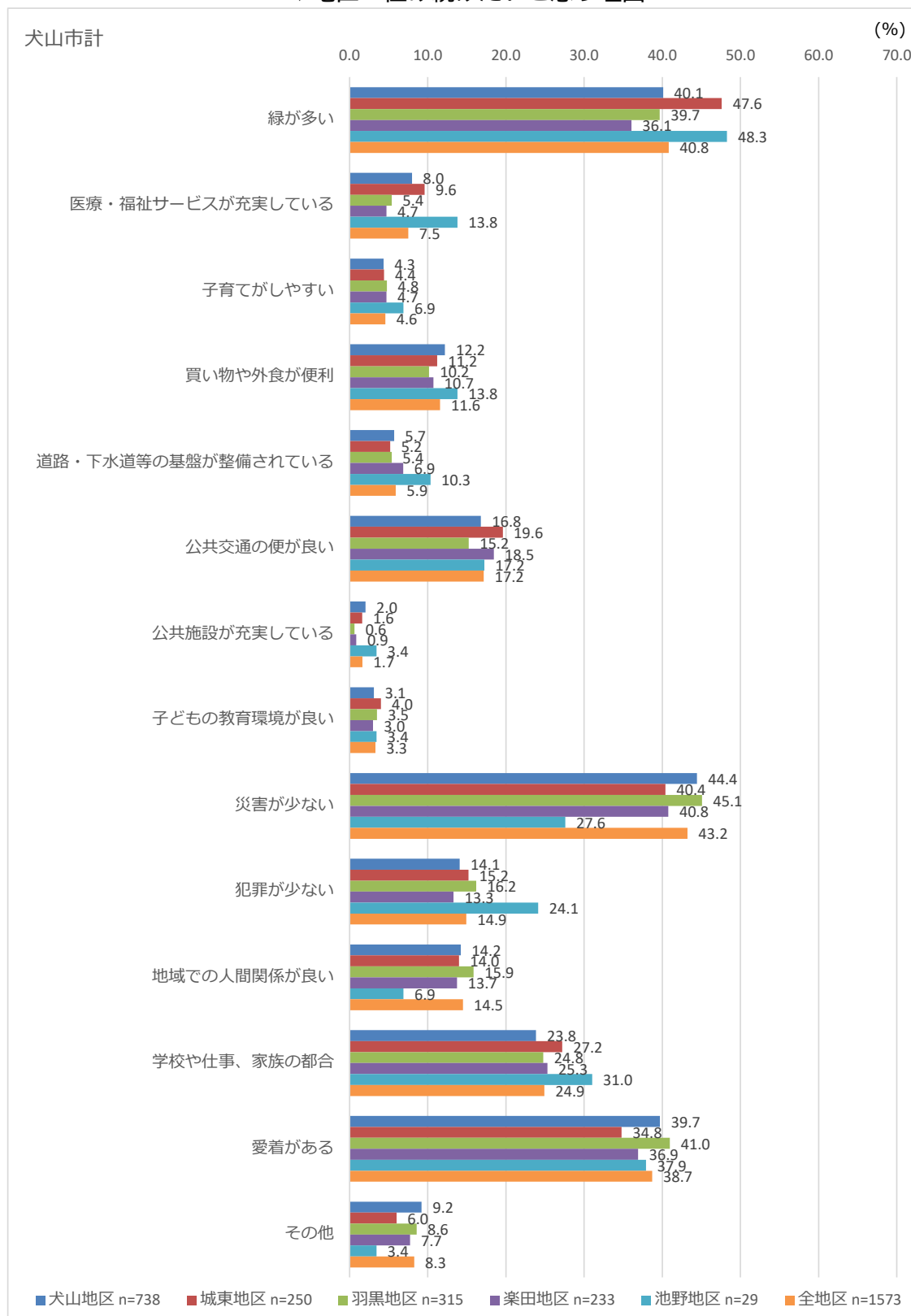
○住み続けたいと思う理由は、「緑が多い」、「災害が少ない」、「愛着がある」が上位となっています。

▼住み続けたいと思う理由



○住み続けたいと思う理由を地区別にみると、城東地区では他地区に比べて「緑が多い」が多くなっていますが、それ以外では大きな差はみられません。

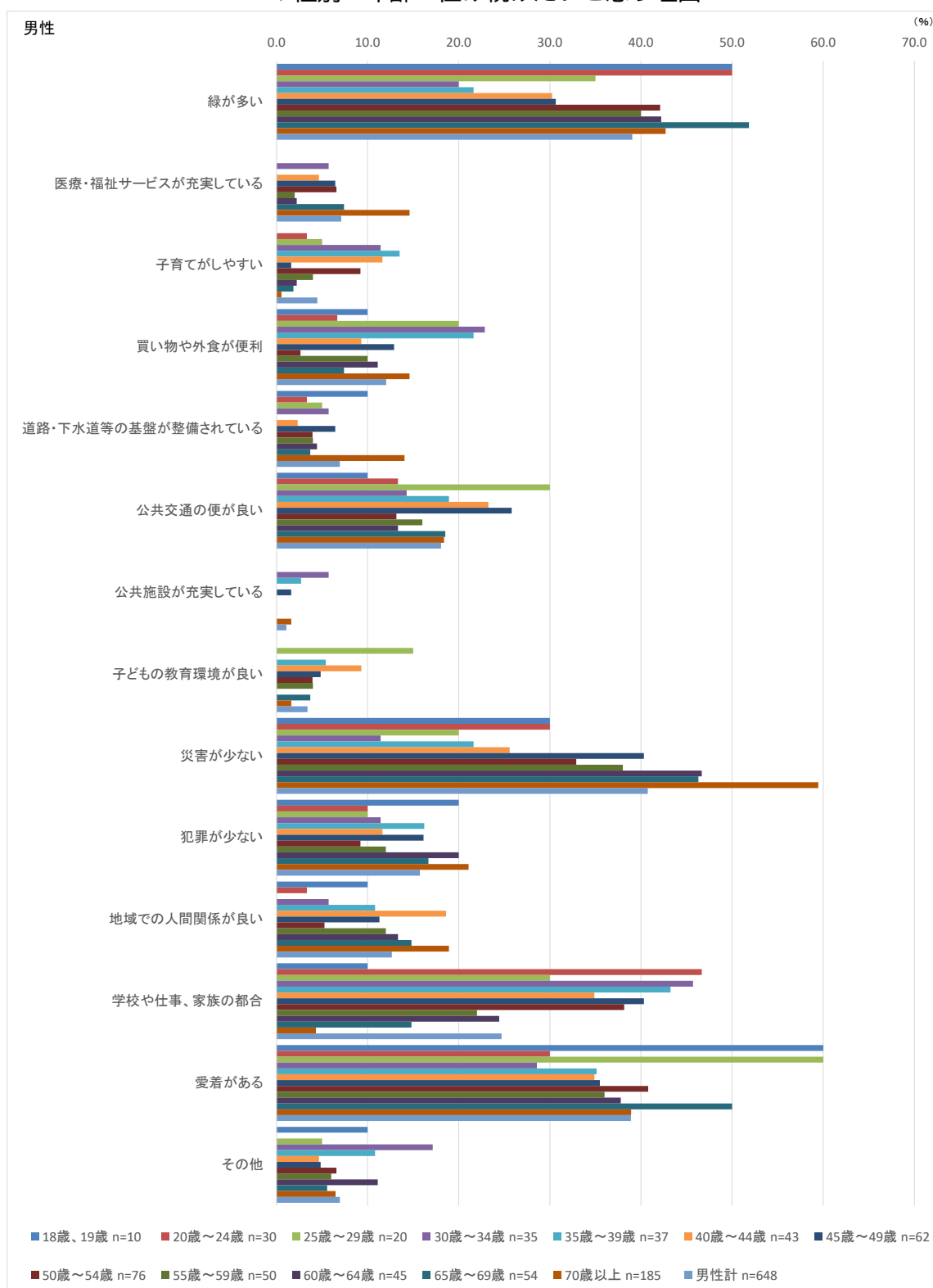
▼地区×住み続けたいと思う理由

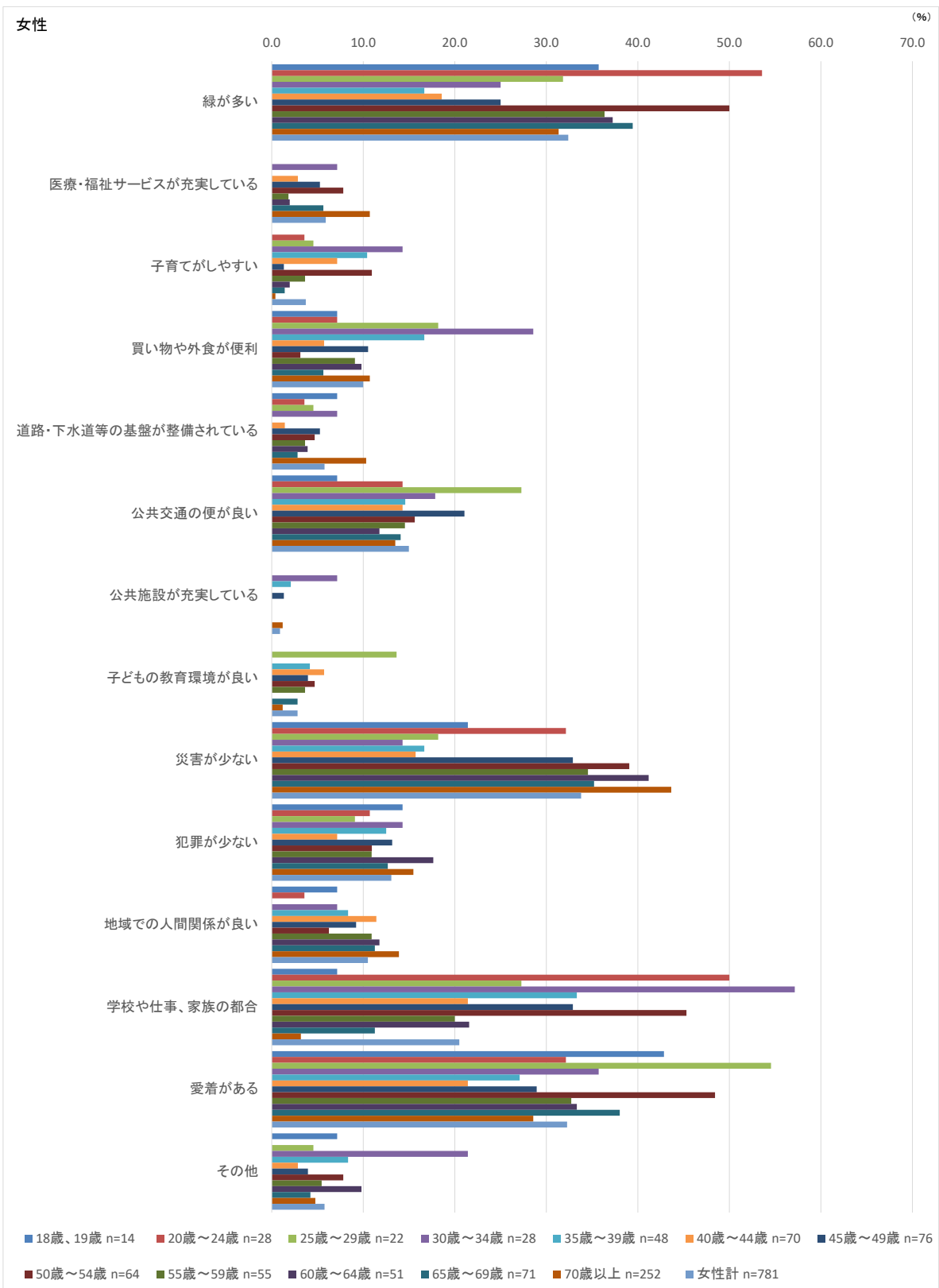


○住みたいと思う理由を年代別にみると、回答数が少なく断定はできないものの、男性・女性ともに20～54歳の各年代において「学校や仕事、家族の都合」が他の年代に比べて多い傾向がみられます。

○また、「買い物や外食が便利」は男性・女性ともに25～39歳で、「公共交通の便が良い」、「子どもの教育環境が良い」は25～29歳で、「医療・福祉サービスが充実している」は70歳以上で他の年代に比べて高い傾向がみられます。

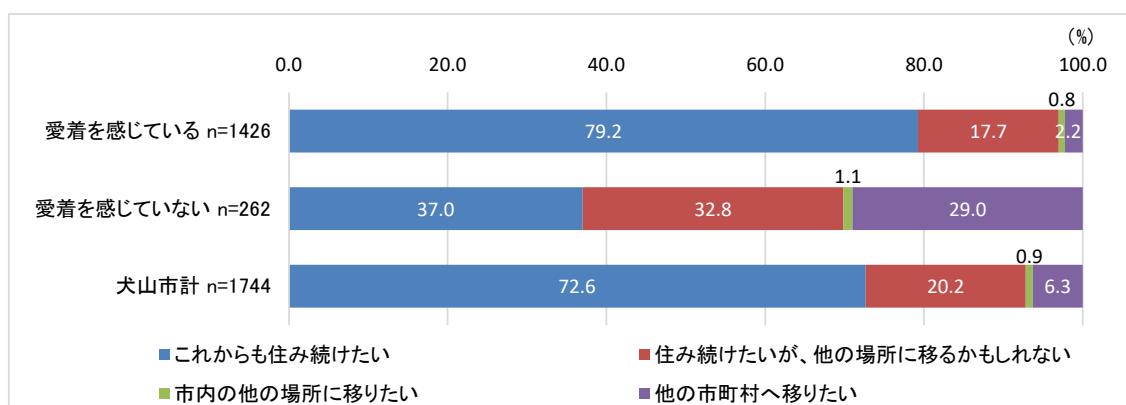
▼性別×年齢×住みたいと思う理由





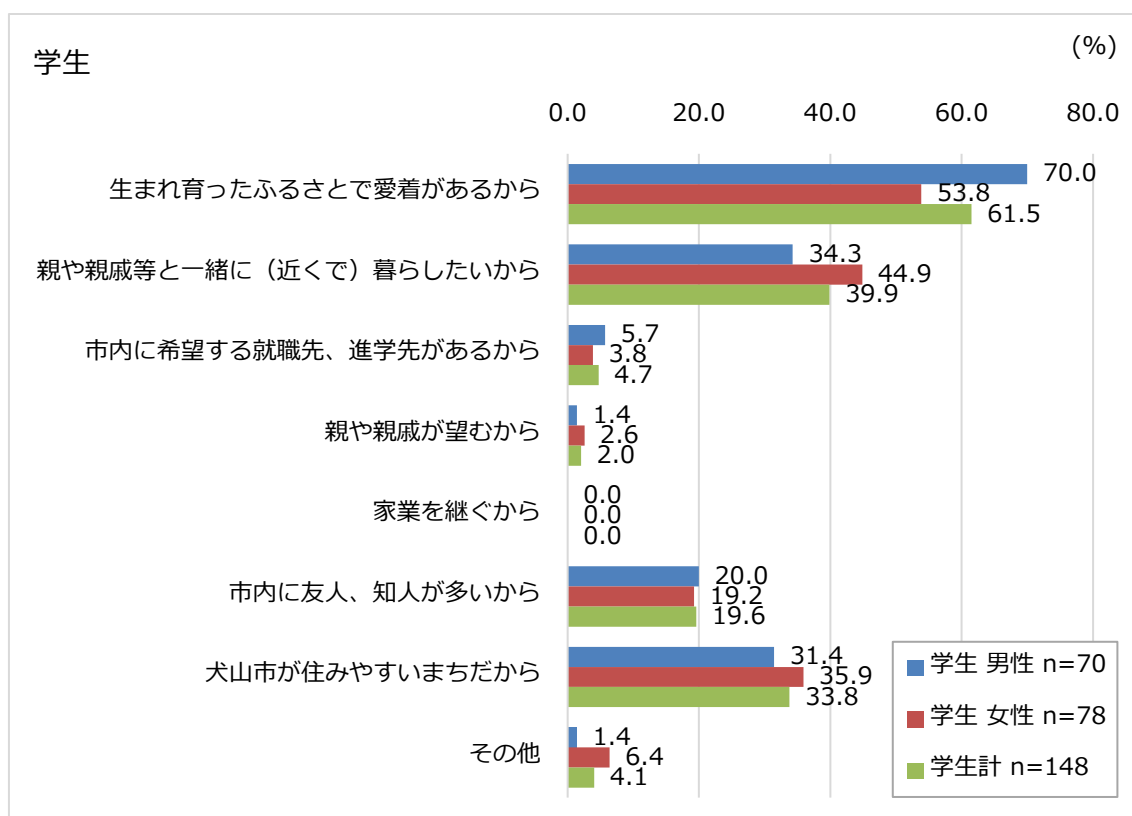
○愛着と定住意向の関係を見ると、愛着を感じている人では「これからも住み続けたい」が約79%であるのに対して、愛着を感じていない人では37%と少なくなっています。

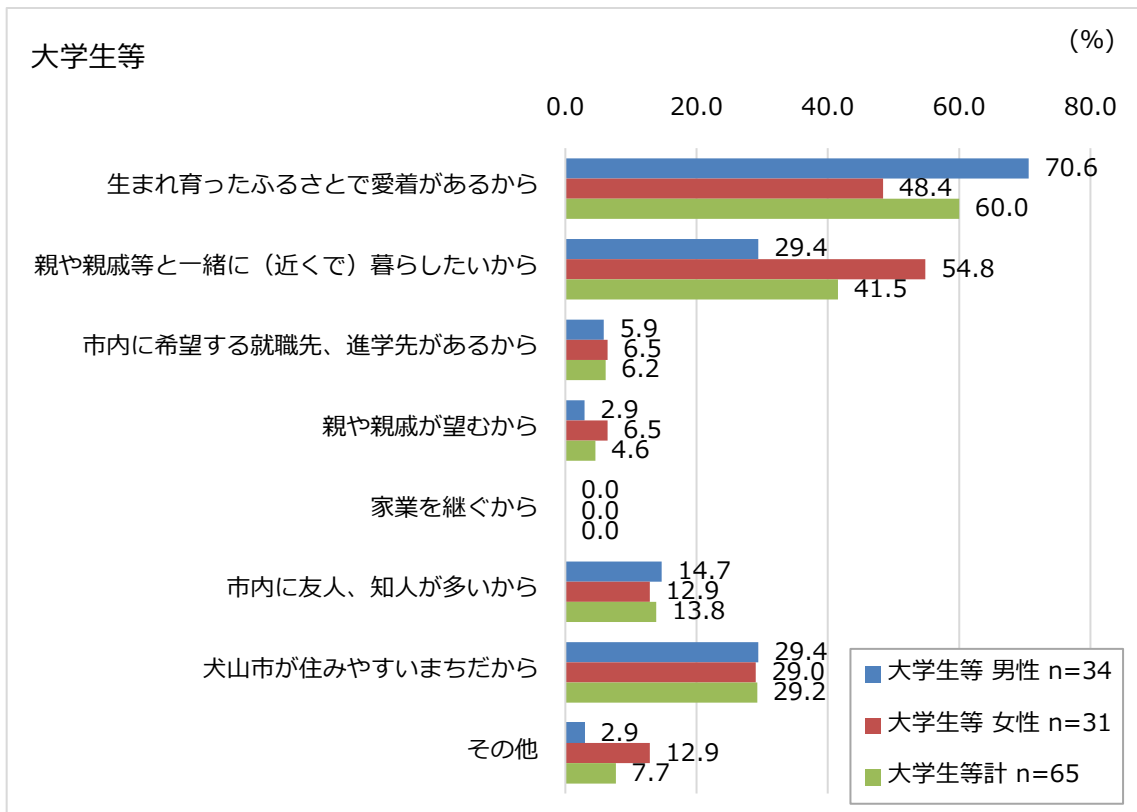
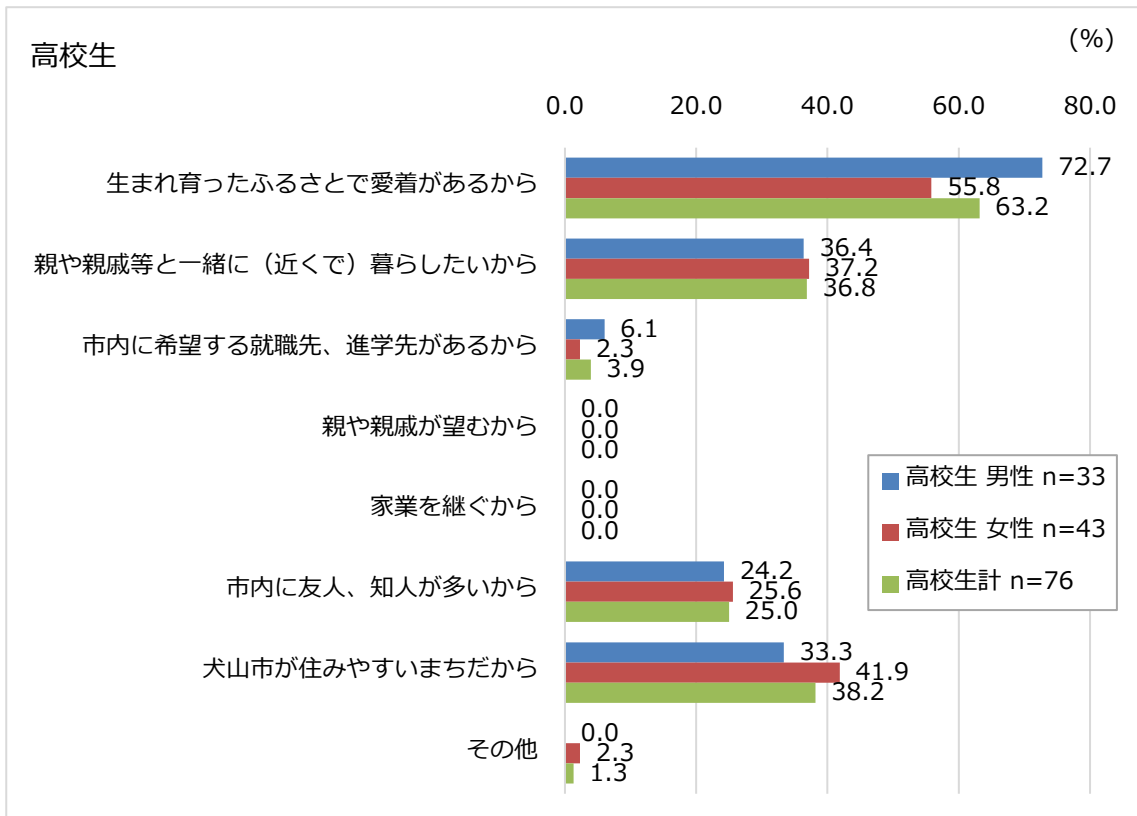
▼愛着×定住意向



△学生の住みたい理由では、回答数が少なく断定はできないものの、男性・女性ともに「生まれ育ったふるさとで愛着があるから」が多く、女性より男性で多くなっています。大学生等の女性では「親や親戚等と一緒に（近くで）暮らしたいから」が一番多くなっています。

▼性別×学生×住みたい理由

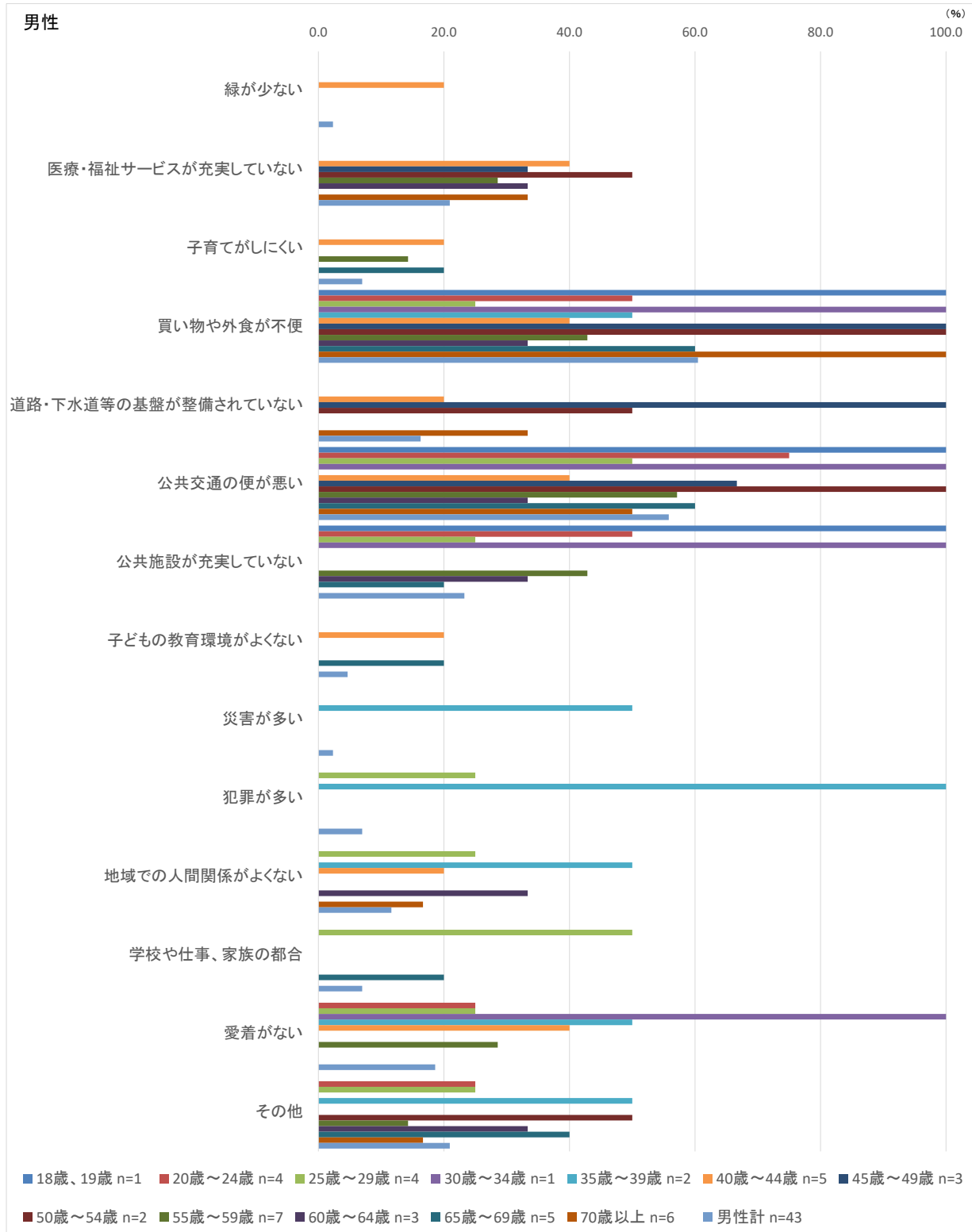


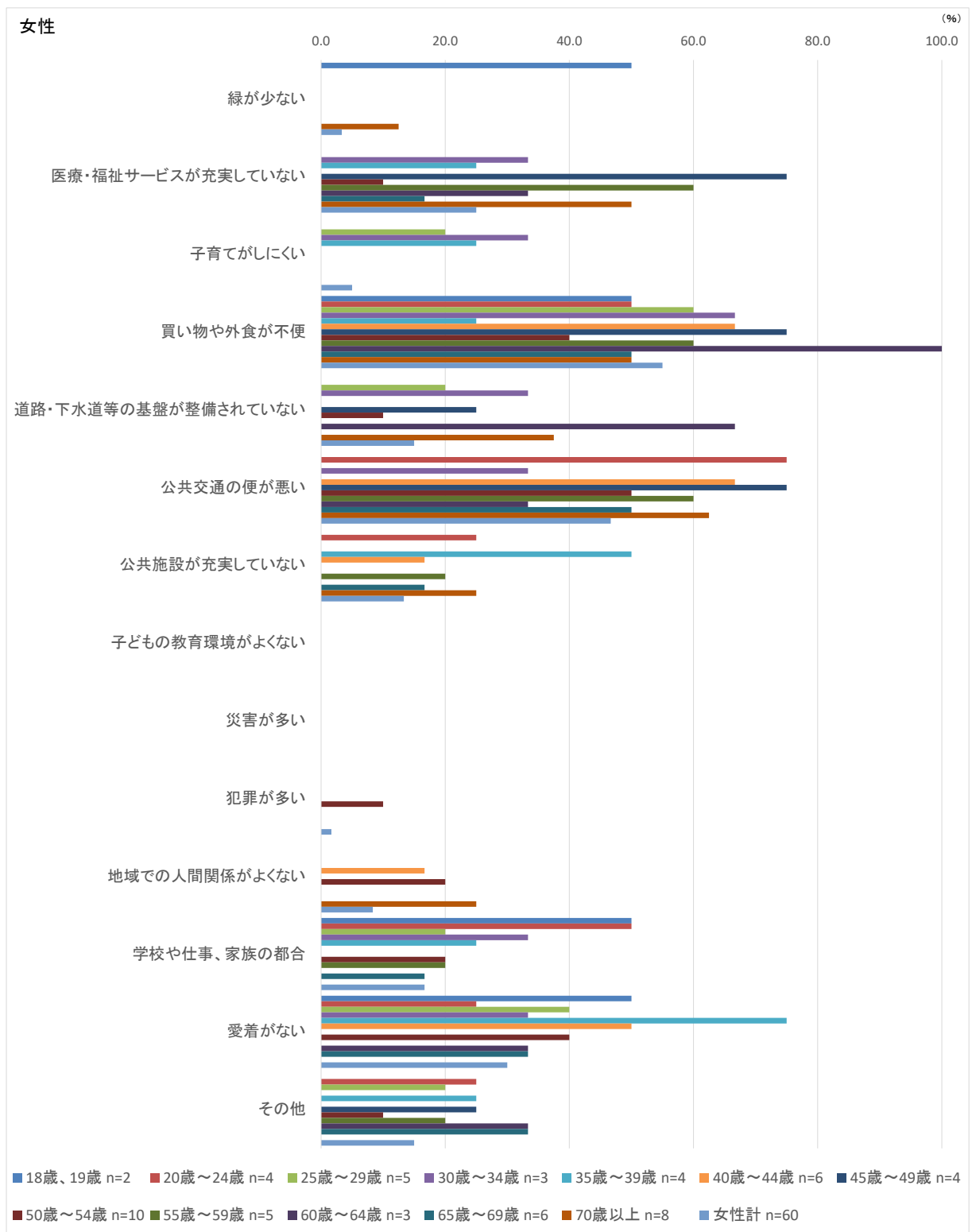


②定住したくない理由

○住み続けたいと思わない理由は、各年代の回答数が少なく断定はできないものの、男性・女性ともに「買い物や外食が不便」、「公共交通の便が悪い」が多い傾向がみられます。年代にかかわらず同様の傾向がみられます。

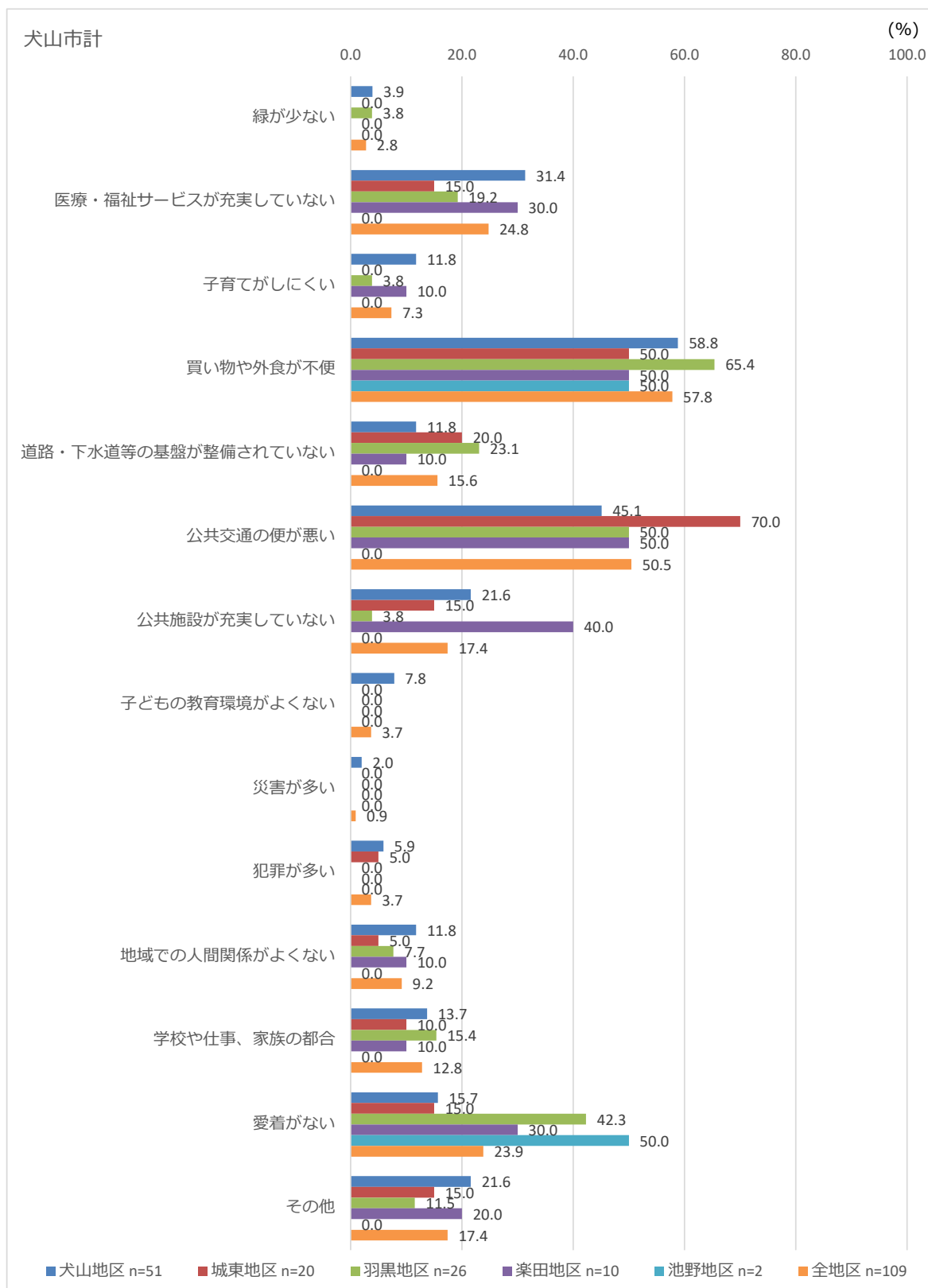
▼性別×年齢×住み続けたいと思わない理由





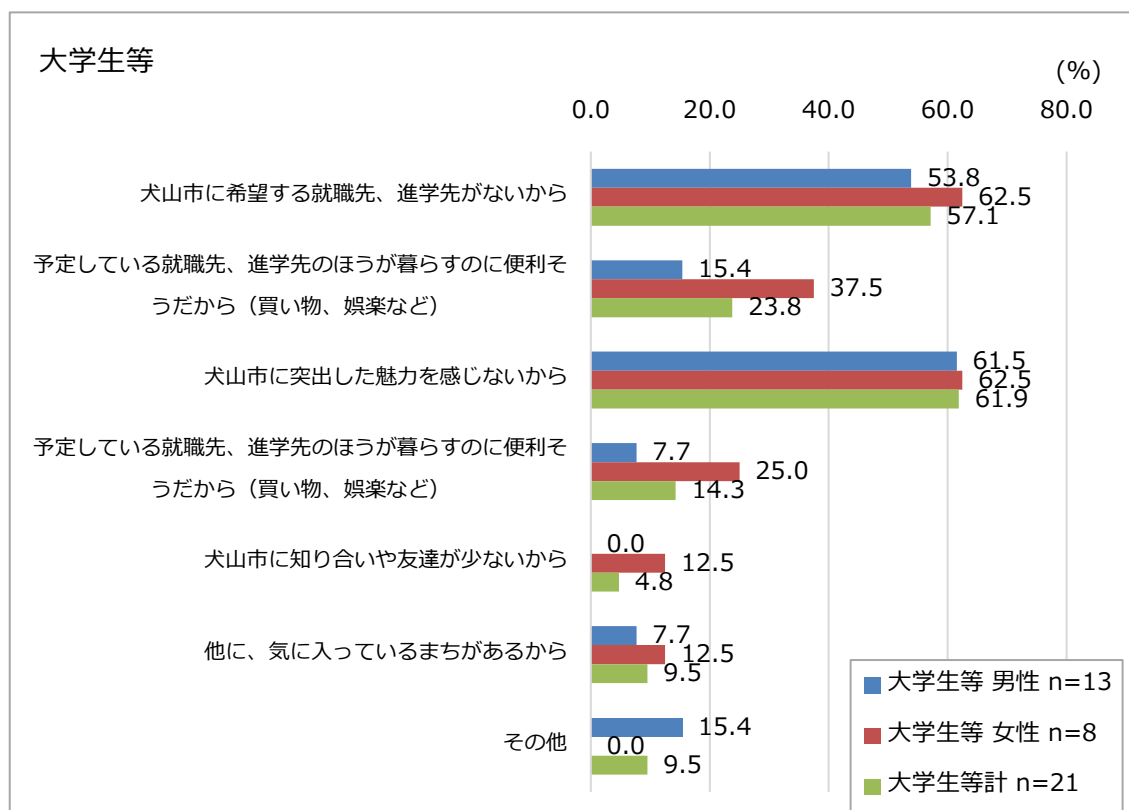
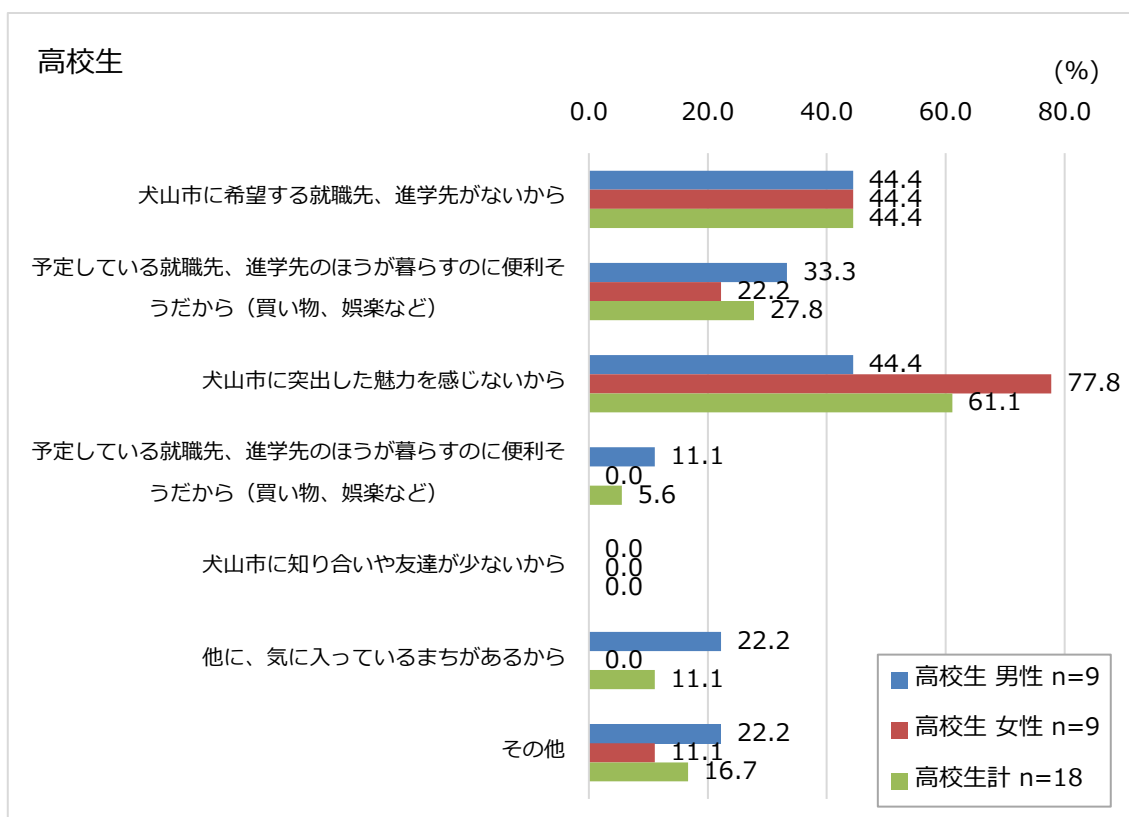
○住み続けたいと思わない理由を地区別にみると、各地区の回答数が少なく断定はできないものの、城東地区では「公共交通の便が悪い」、羽黒地区では「買い物や外食が不便」「愛着がない」、犬山地区、楽田地区では「医療・福祉サービスが充実していない」、楽田地区では「公共施設が充実していない」が多くなっています。

▼地区×住み続けたいと思わない理由



△高校生・大学生等の住みたくない理由を見ると、回答数が少なく断定はできないものの、男性・女性を問わず「犬山市に突出した魅力を感じないから」、「犬山市に希望する就職先、進学先がないから」が多い傾向がみられます。

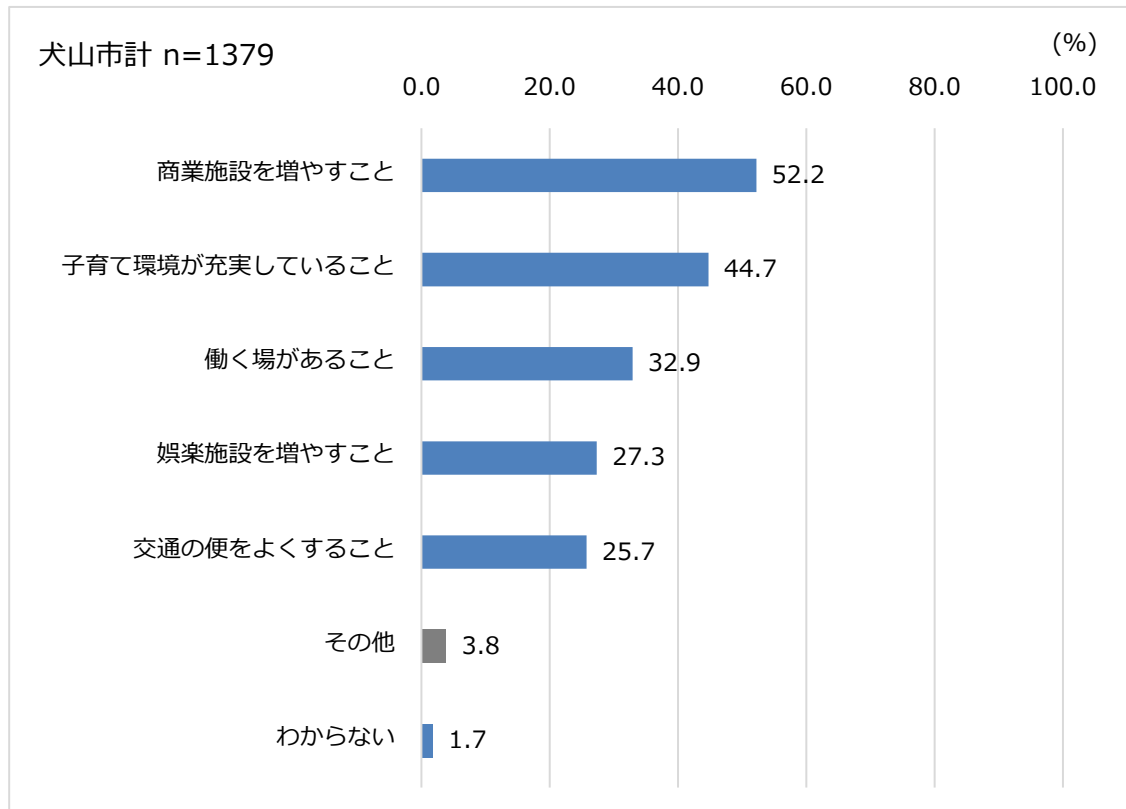
▼性別×学生×住みたくない理由



②定住するために必要なこと

△若い人が住み続けるために必要なことは「商業施設を増やすこと」(約 52%)、「子育て環境が充実していること」(約 45%)、「働く場があること」(約 33%)が多くなっています。

▼若い人が住み続けるために必要なこと



3. 定住促進に係る事項に関する分析

ここでは、前述「2. 定住に関する分析」を踏まえ、1) 就職、2) 居住環境（住環境、都市基盤、買い物環境等）、3) 愛着、地域とのつながりについて分析します。

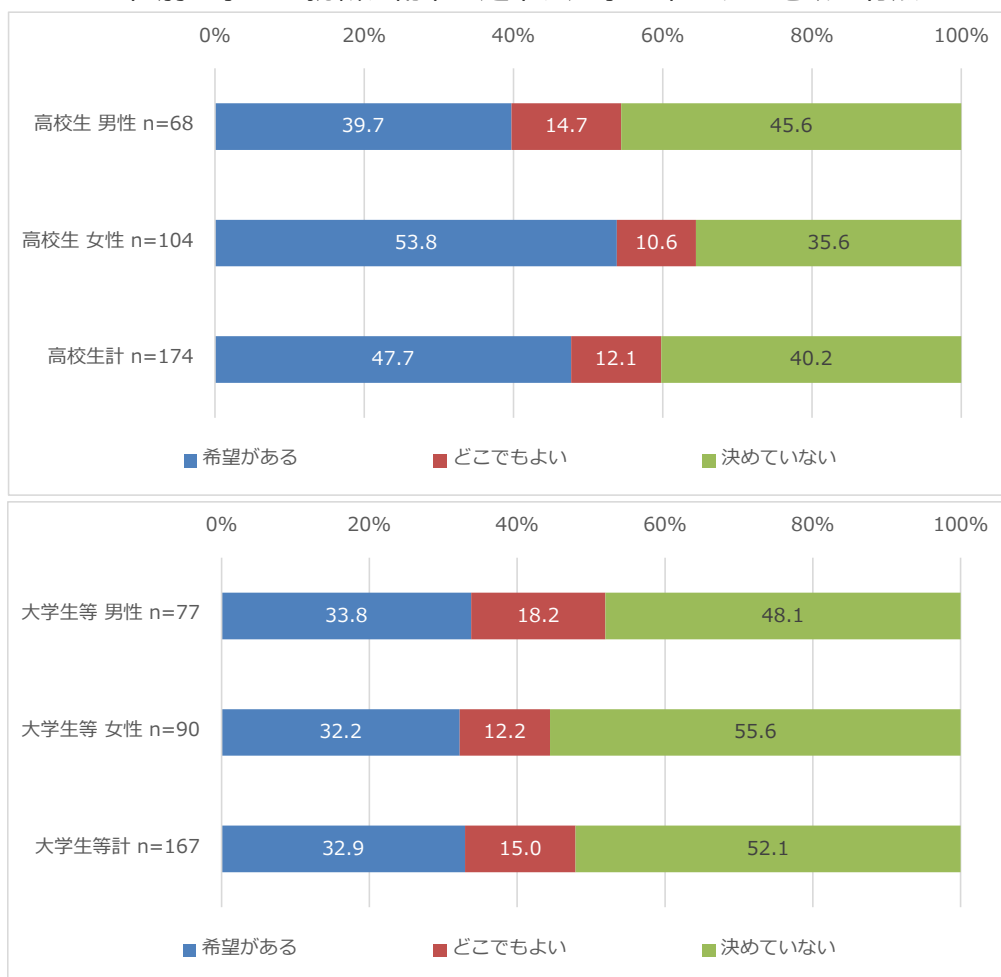
1) 就職

①進学・就職する地域の希望

△進学・就職等を希望する地域があるという人は、高校生の女性で約53%と多く、高校生の男性、大学生等の男性・女性では3割台となっています。

△具体的な地名をみると、高校生・大学生等ともに、男性・女性を問わず名古屋市が最も多く、高校生・大学生等全体で67名が名古屋市と回答しています。大学生等の女性では犬山市を第一希望に挙げる人が名古屋市（7名）と同数となっています。

▼性別×学生×就職、創業・起業、進学を希望する地域の有無



▼大学生等・高校生×就職、創業・起業、進学を希望する地域

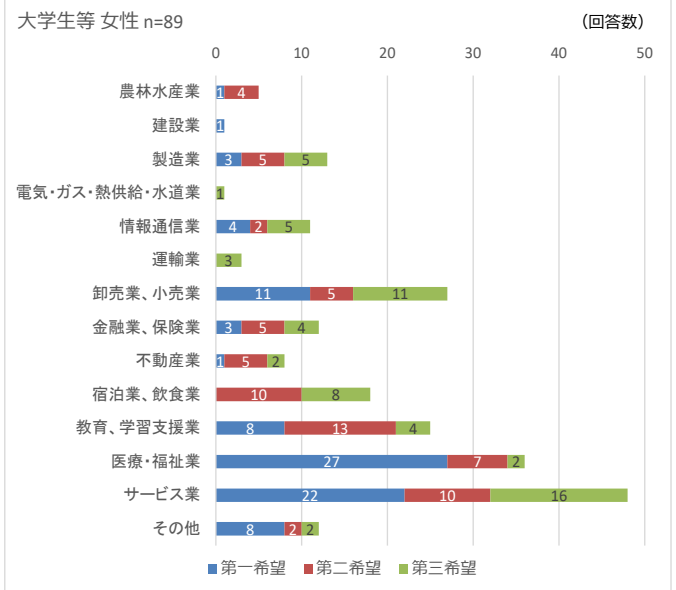
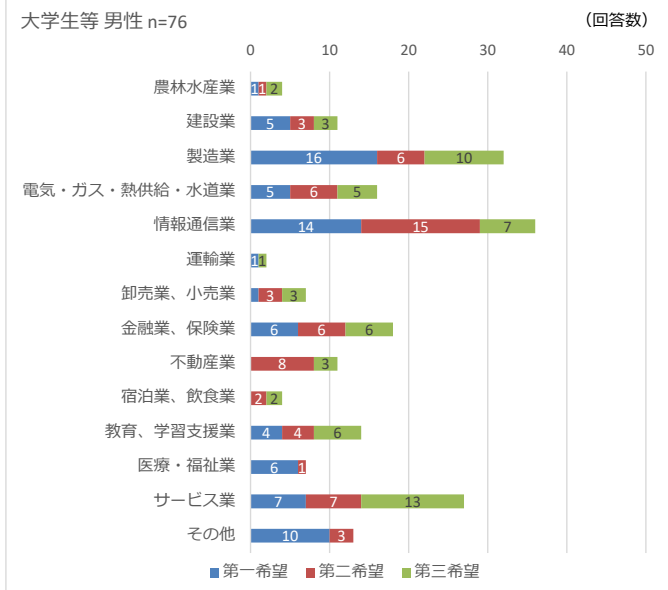
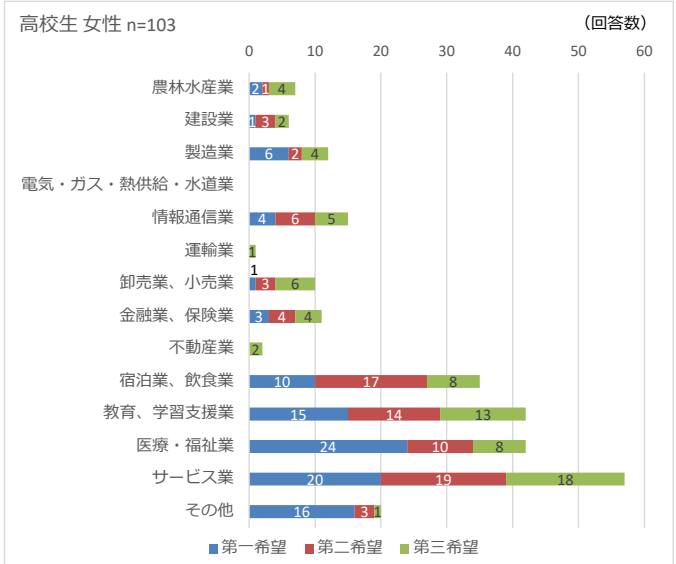
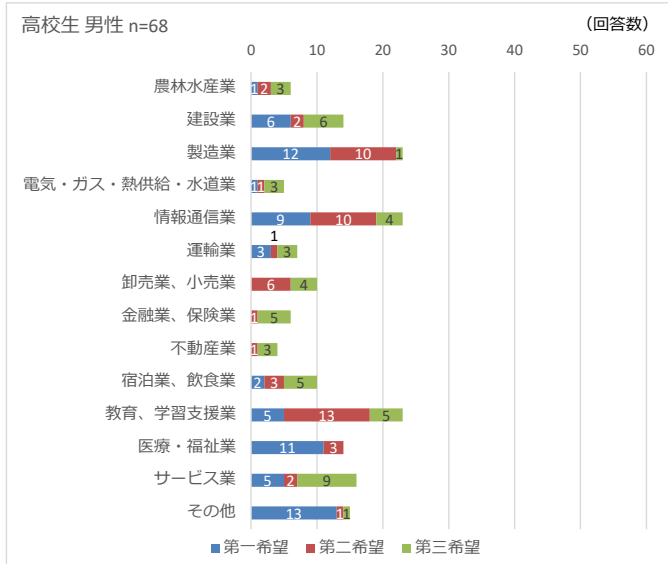
大学生等(男性)					大学生等(女性)						
第1希望	件数	第2希望	件数	第3希望	件数	第1希望	件数	第2希望	件数	第3希望	件数
愛知県名古屋市	9	愛知県犬山市	3	愛知県名古屋市	2	愛知県犬山市	7	愛知県小牧市	4	愛知県扶桑町	3
愛知県犬山市	5	愛知県小牧市	3	愛知県江南市	2	愛知県名古屋市	7	愛知県名古屋市	3	愛知県	2

高校生(男性)					高校生(女性)						
第1希望	件数	第2希望	件数	第3希望	件数	第1希望	件数	第2希望	件数	第3希望	件数
愛知県名古屋市	8	愛知県名古屋市	5	愛知県名古屋市	4	愛知県名古屋市	20	愛知県名古屋市	8	愛知県名古屋市	3
愛知県犬山市	3	東京都	2	愛知県犬山市	2	愛知県	8	愛知県小牧市	5	愛知県犬山市	2

②進学・就職する仕事の希望

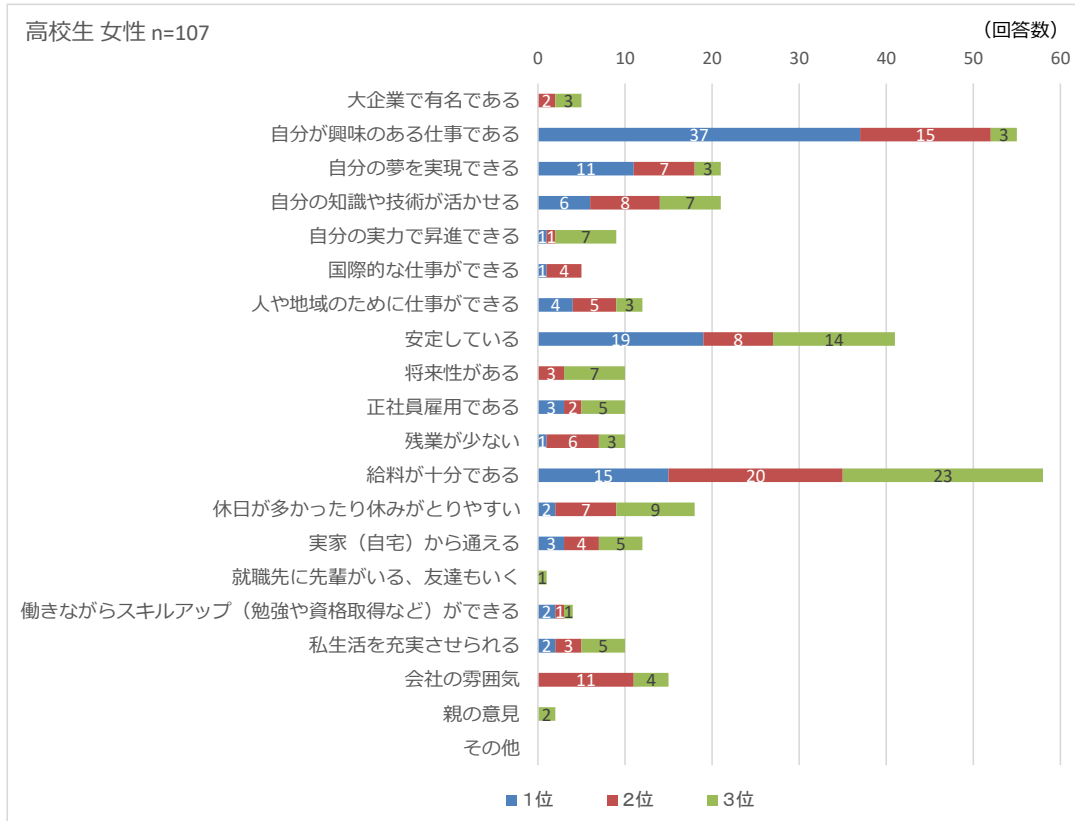
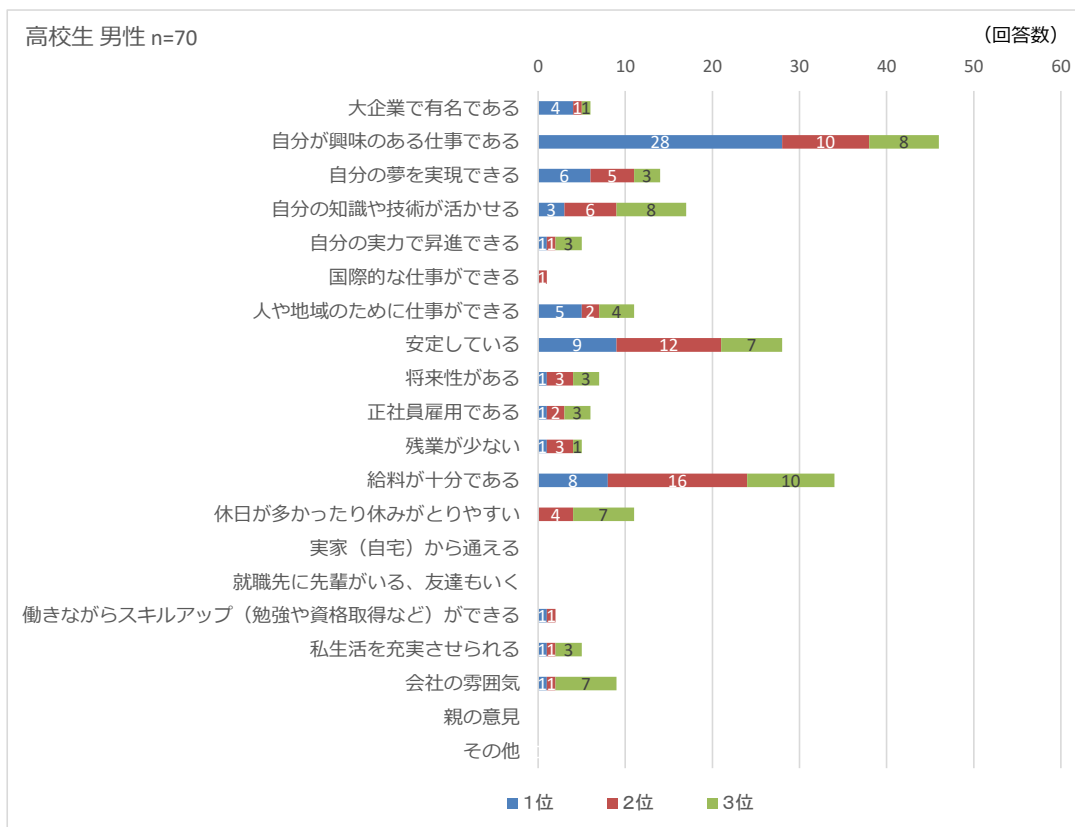
△希望する業種では、高校生・大学生等ともに、男性では「情報通信業」「製造業」が多く、女性では、高校生で「サービス業」「教育、学習支援業」、「医療・福祉業」「宿泊業、飲食業」が多く、大学生等で「サービス業」「医療・福祉業」が多くなっています。

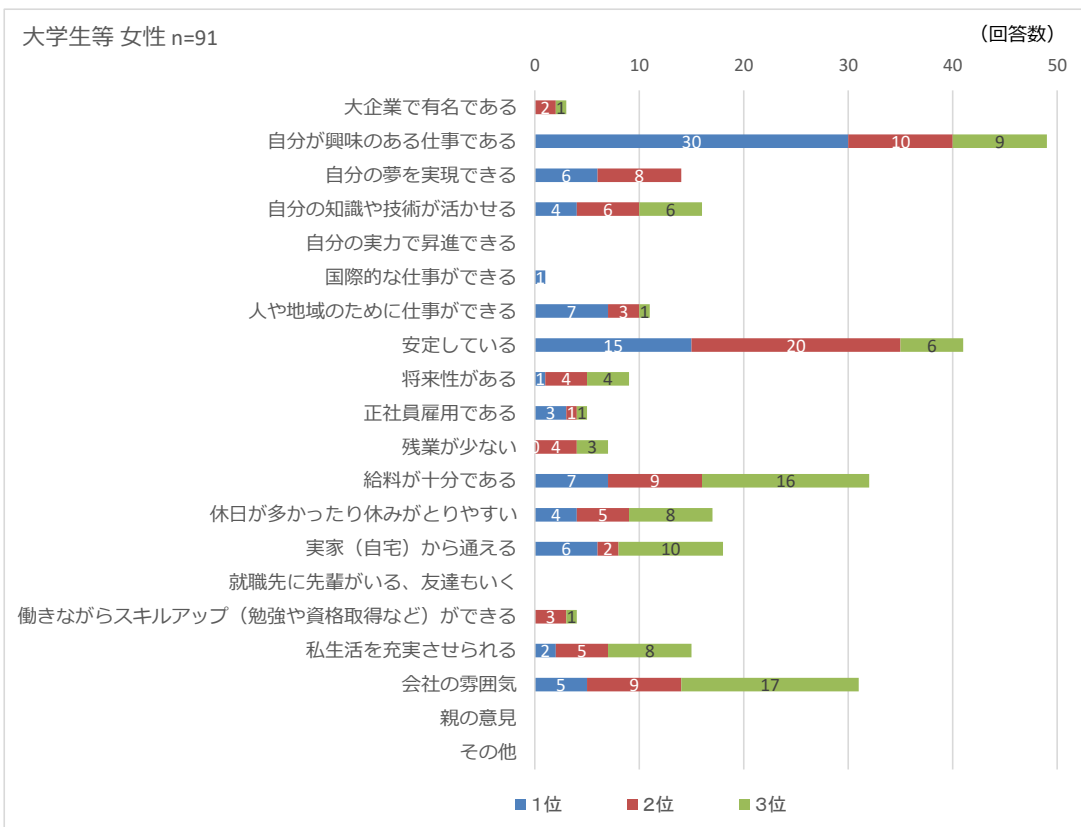
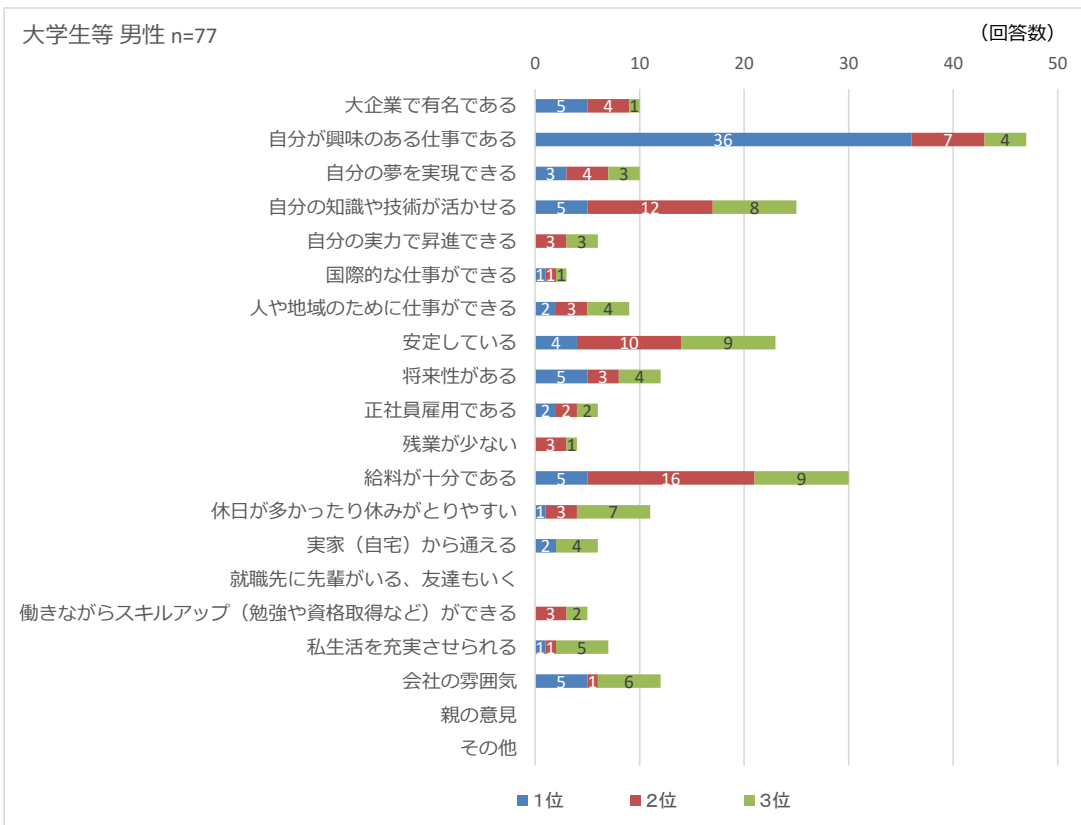
▼性別×学生×就職×創業・起業を希望する業種



△就職先を決める上で重視することは、高校生の男性、大学生等の男性・女性では「自分が興味のある仕事である」が最も多く、高校生の女性では、それ以上に「給料が十分である」が多くなっています。それら2項目のほか、「安定している」も多い傾向があります。また、大学生の女性では、「会社の雰囲気」が他と比べて多くなっています。

▼性別×学生×就職先を決める上で重視すること

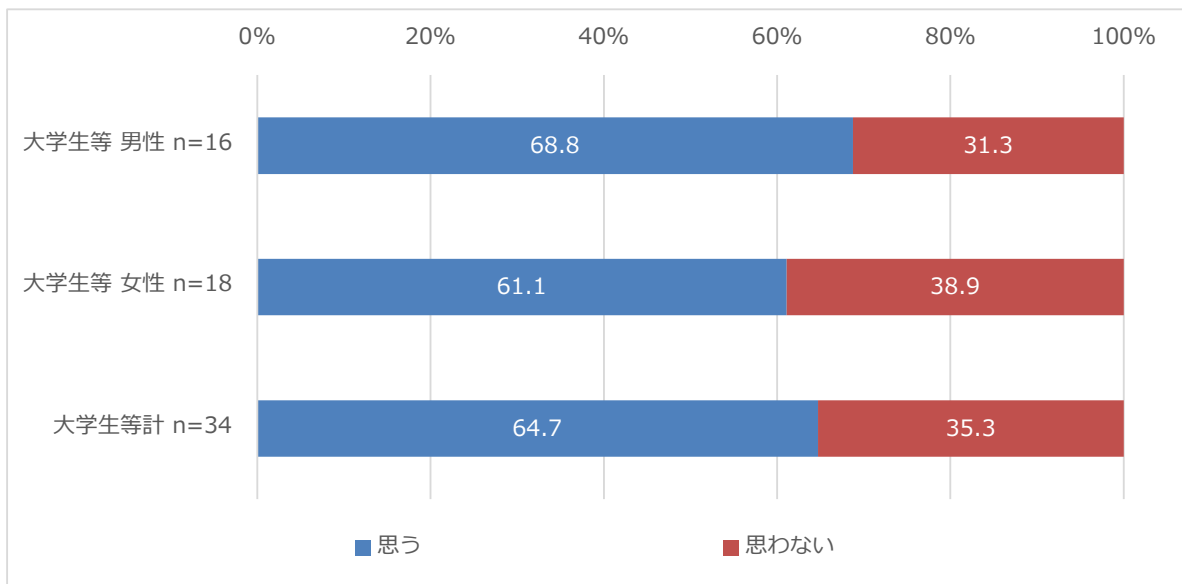
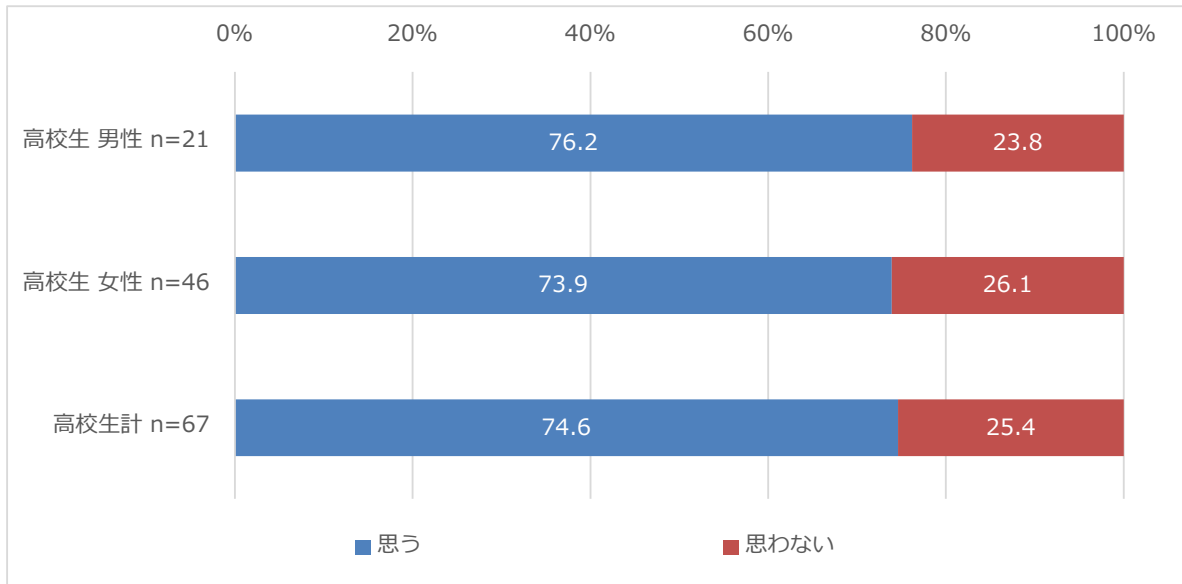




③就職先と定住意向

△就職等の希望地域を犬山市以外と回答した人でも、犬山市内に就職先があれば住み続けるという学生は、男性・女性ともに高校生では7割台、大学生等では6割台となっています。なお、これについても回答数が少なく断定はできません。

▼性別×学生×犬山市で希望する仕事があれば犬山市に住みたいか

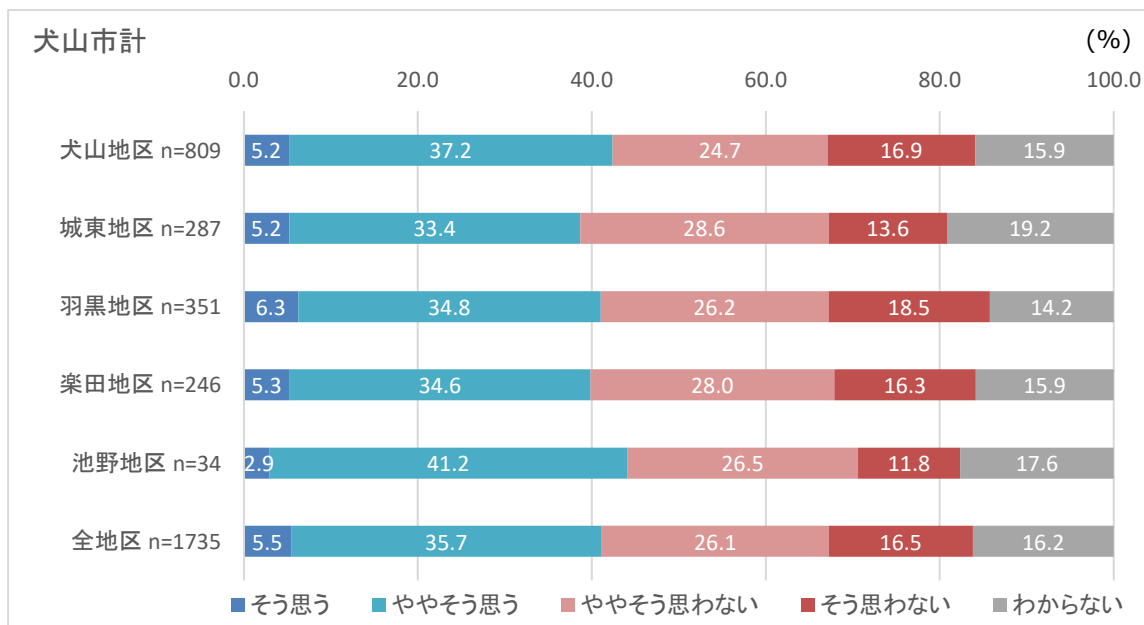


2) 居住環境（住環境、都市基盤、買い物環境等）

①住環境の整備に対する評価

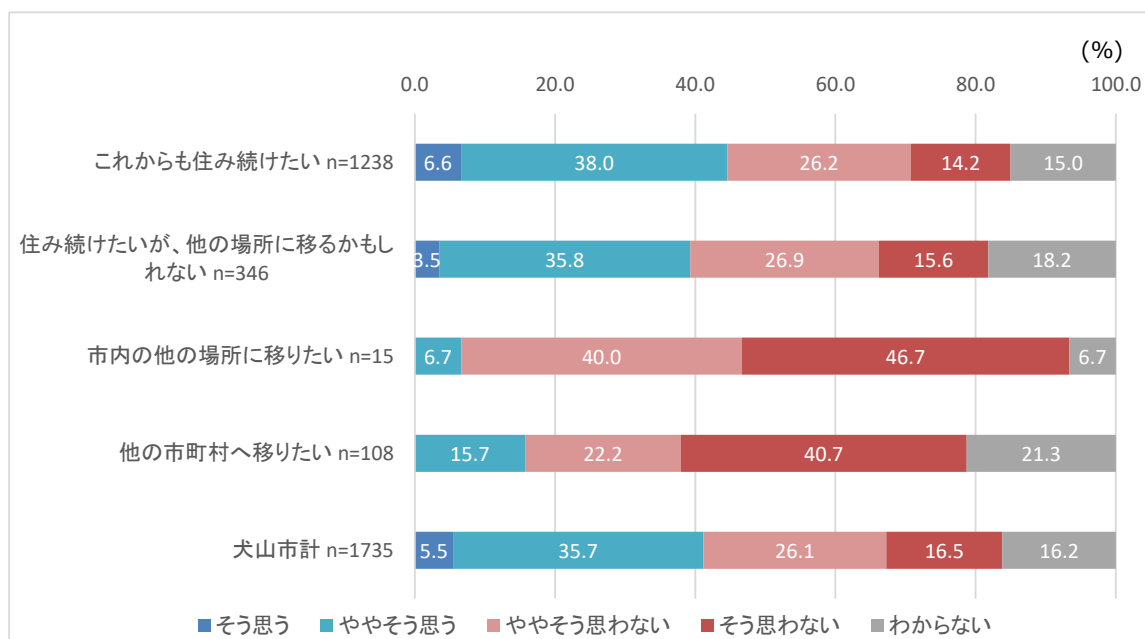
○住環境が整備されたまちだと思う人（「そう思う」「ややそう思う」の合計）は約41%で、そう思わない人（「ややそう思わない」「そう思わない」の合計、約43%）と同程度となっており、いずれの地区も大きな差はありません。

▼地区×住環境が整備されたまちだと思うか



○住環境の整備について、「これからも住み続けたい」と思う人では、住環境が整備されたまちだと思う人は約45%、「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」と思う人では約39%となっています。

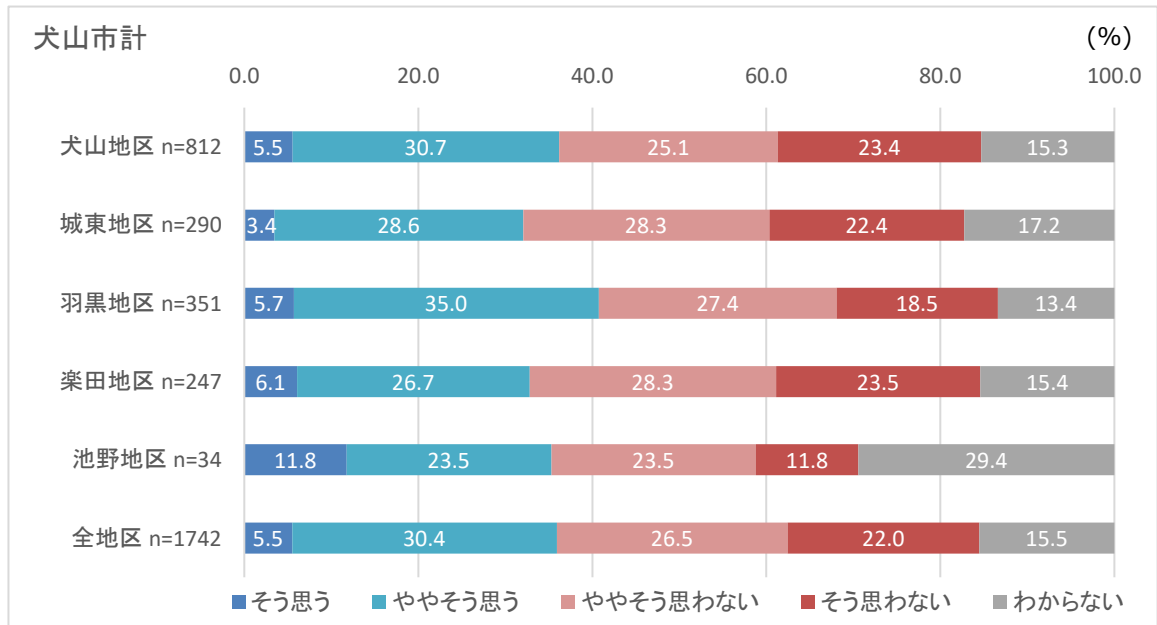
▼定住意向×住環境が整備されたまちだと思うか



②都市基盤整備に対する評価

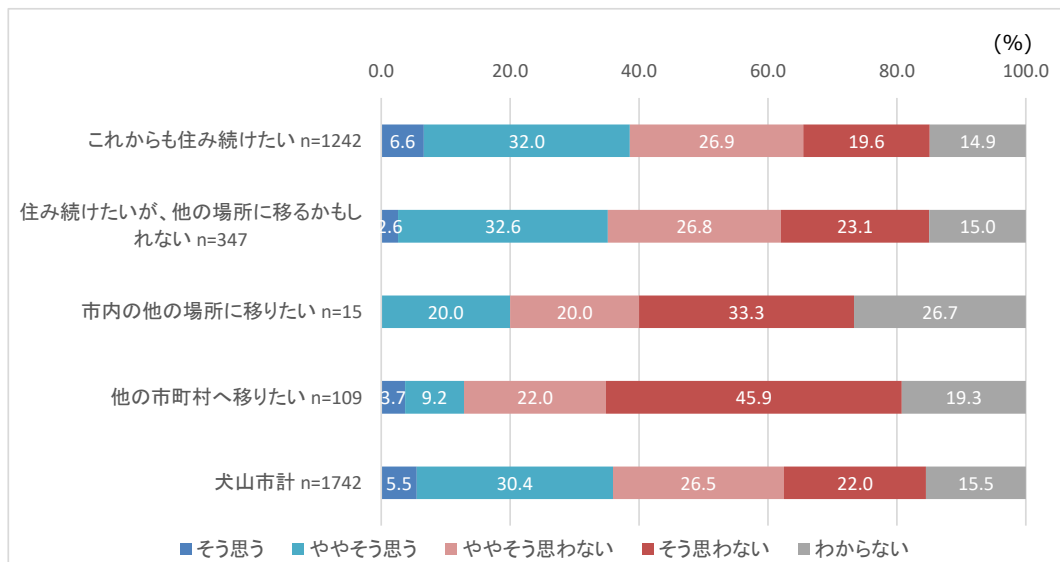
○道路や橋などのインフラが適切に管理されていると思う人は約36%で、そう思わない人(約49%)の方が多くっており、いずれの地区も同様の傾向がみられます。

▼地区×道路や橋などのインフラが適切に管理されていると思うか



○インフラの管理について、「これからも住み続けたい」と思う人や「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」と思う人では、道路や橋などのインフラが適切に管理されていると思う人が、それ以外の人に比べて多い傾向がみられますが、いずれにおいても適切に管理されているとは思わない人の方が多くなっています。

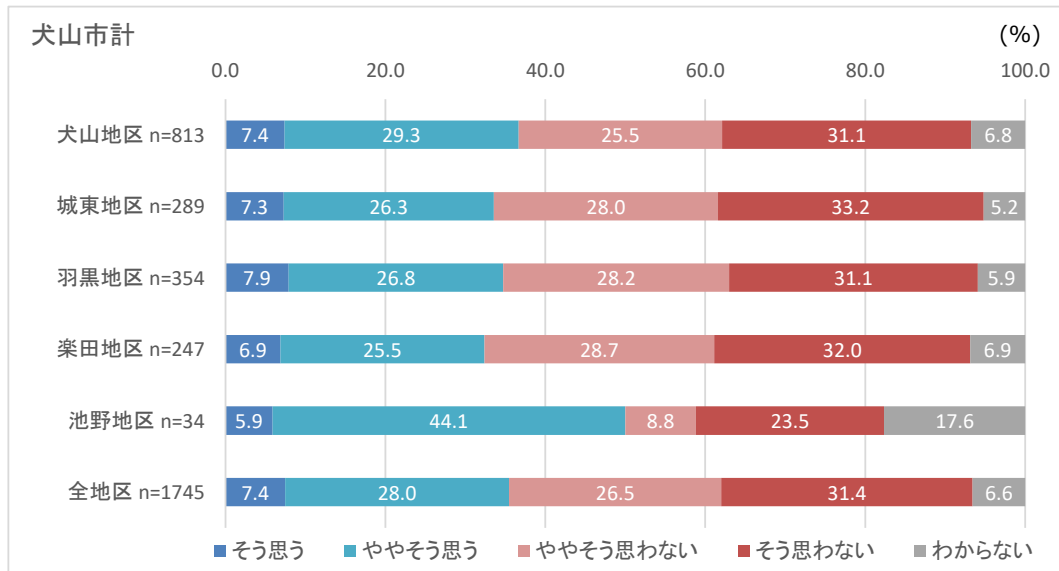
▼定住意向×道路や橋などのインフラが適切に管理されていると思うか



③公共交通に対する評価

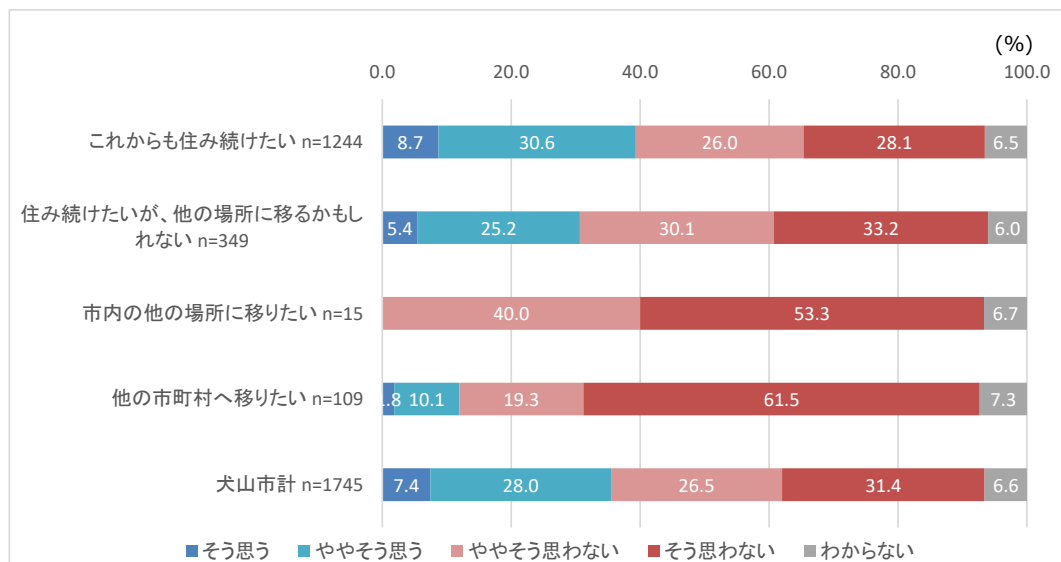
○公共交通が便利であると思う人は約 35%で、そう思わない人（約 58%）の方が多くなっており、いずれの地区も同様の傾向がみられます。

▼地区×公共交通が便利であると思うか



○公共交通の利便性について、「これからも住み続けたい」と思う人や「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」と思う人では、公共交通が便利であると思う人が、それ以外の人に比べて多い傾向がみられますが、いずれにおいても公共交通が便利だと思わないの方が多くなっています。

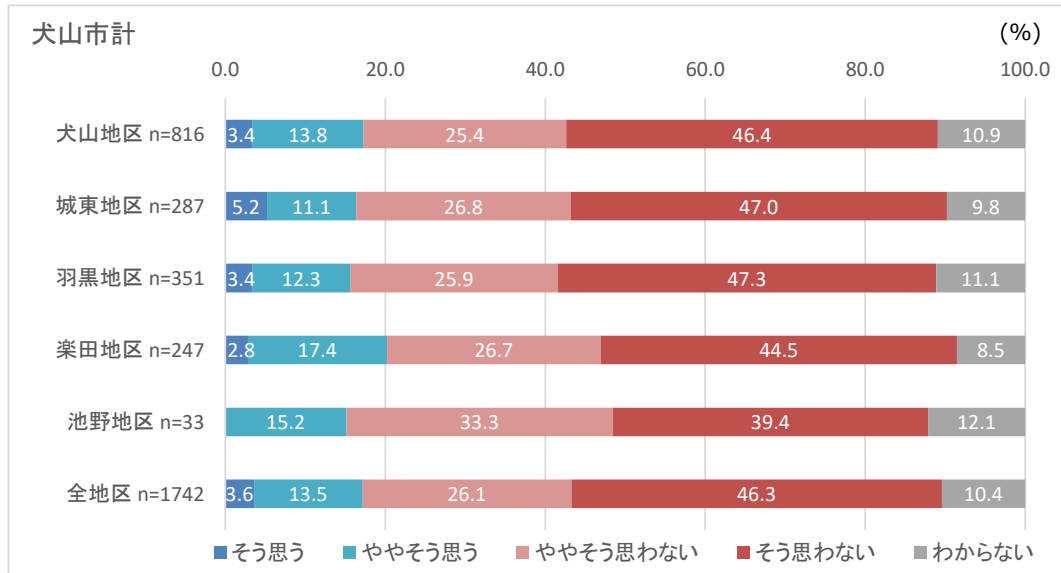
▼定住意向×公共交通が便利であると思うか



④買い物環境に対する評価

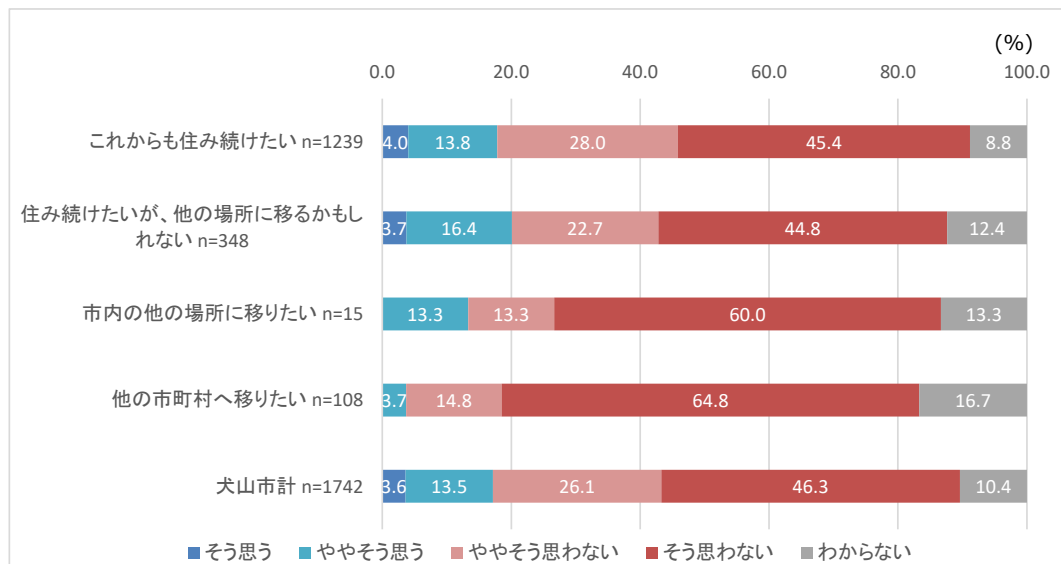
○魅力がある商店があると思う人は約 17%で、そう思わない人（約 72%）に比べて少なくなっており、いずれの地区も同様の傾向がみられます。

▼地区×魅力ある商店があるまちだと思うか



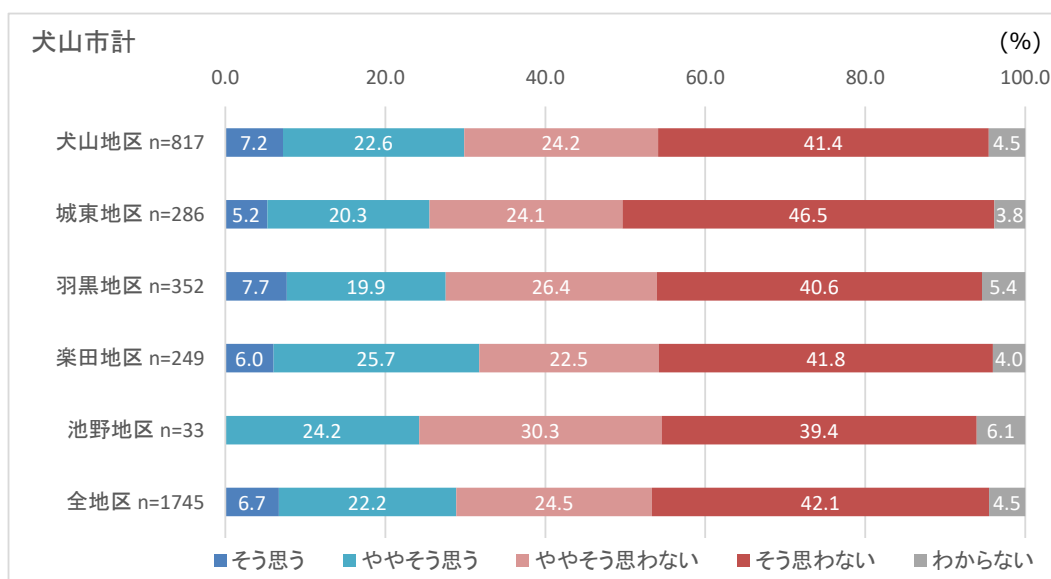
○魅力がある商店の有無について、「これからも住み続けたい」と思う人や「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」と思う人では、魅力がある商店があると思う人が、それ以外の人に比べて多い傾向がみられますが、いずれにおいても魅力がある商店があると思わない人の方が多くなっています。

▼定住意向×魅力ある商店があるまちだと思うか



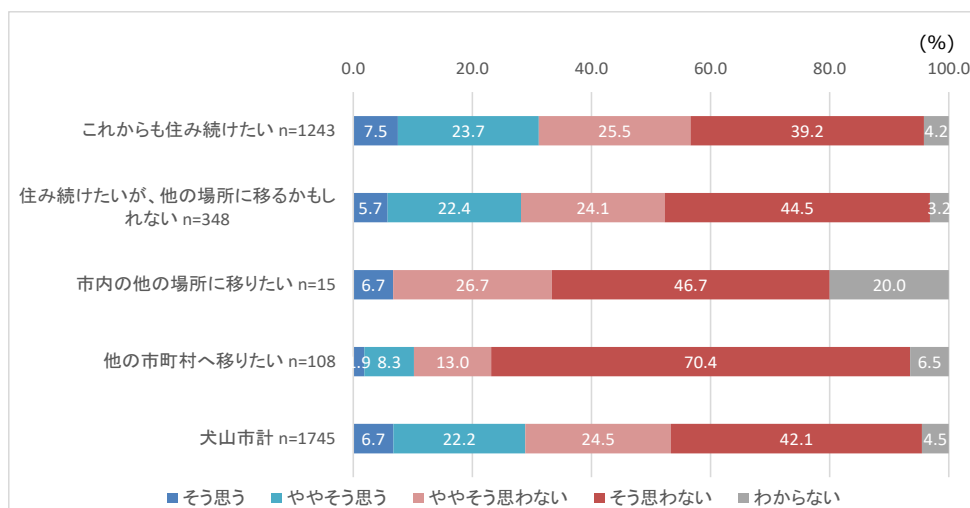
○市内での買い物が便利だと思う人は約 29%で、そう思わない人（約 67%）に比べて少なくなっており、いずれの地区も同様の傾向がみられます。

▼地区×市内での買い物が便利だと思うか



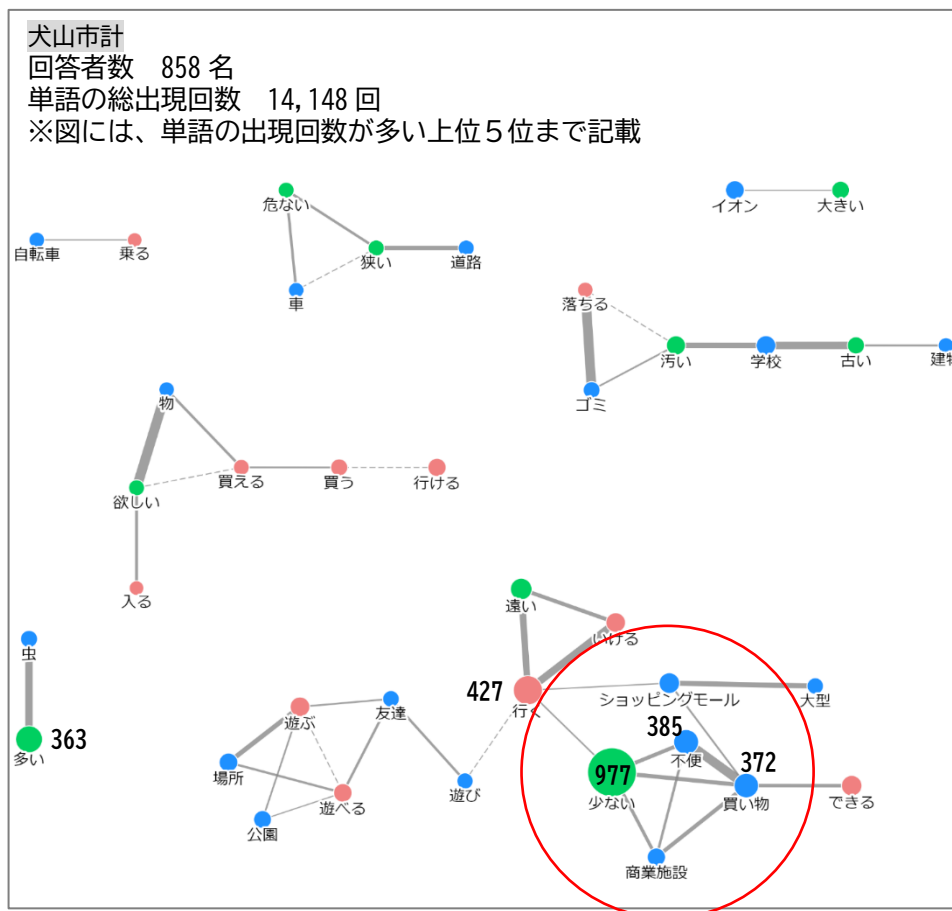
○市内の買い物の利便性について、「これからも住み続けたい」と思う人や「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」と思う人では、市内での買い物が便利だと思う人が、それ以外の人に比べて多い傾向がみられますが、いずれにおいても市内での買い物が便利だと思わない人の方が多くなっています。

▼定住意向×市内での買い物が便利だと思うか



◇中学生は犬山市の嫌いなところとして、買い物の不便さに対する意見を多く挙げています。

▼犬山市の「嫌いなところ」と「その理由」



※上図は、テキストマイニングの分析結果を表したものであり、単語が出現する回数を円の大きさで表し、各単語のつながりの強さを線の太さで表す。実線は単語のグループが同じもの、破線は異なるグループのものを表している。

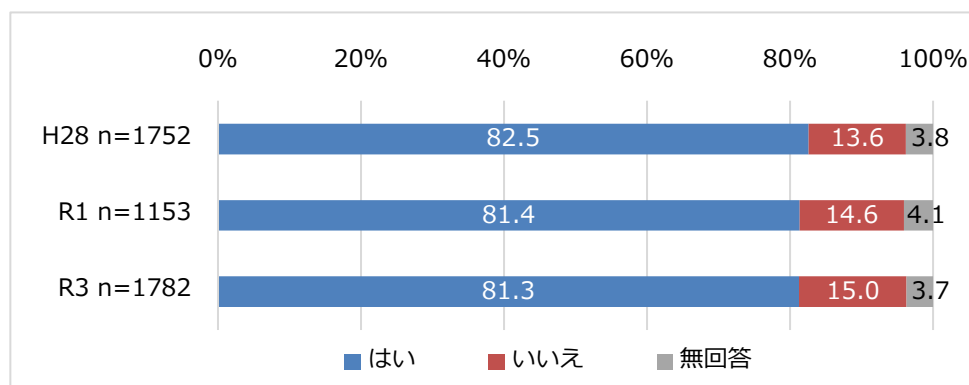
※テキストマイニングとは、文字情報の分析に用いられるデータ分析手法。大量のテキストを解析することで、語句の頻度や文章内の単語同士の関連性から、キーワードや文章の傾向を示す。

3) 愛着、地域のつながり

①まちに対する愛着の実態

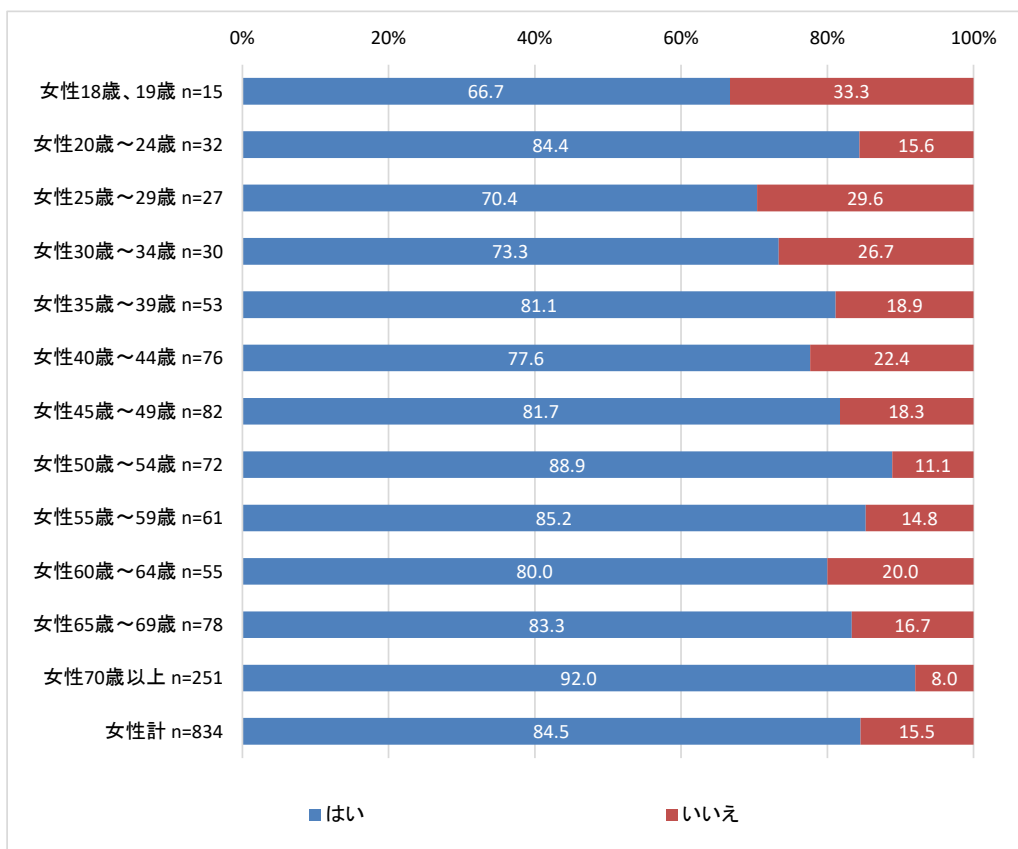
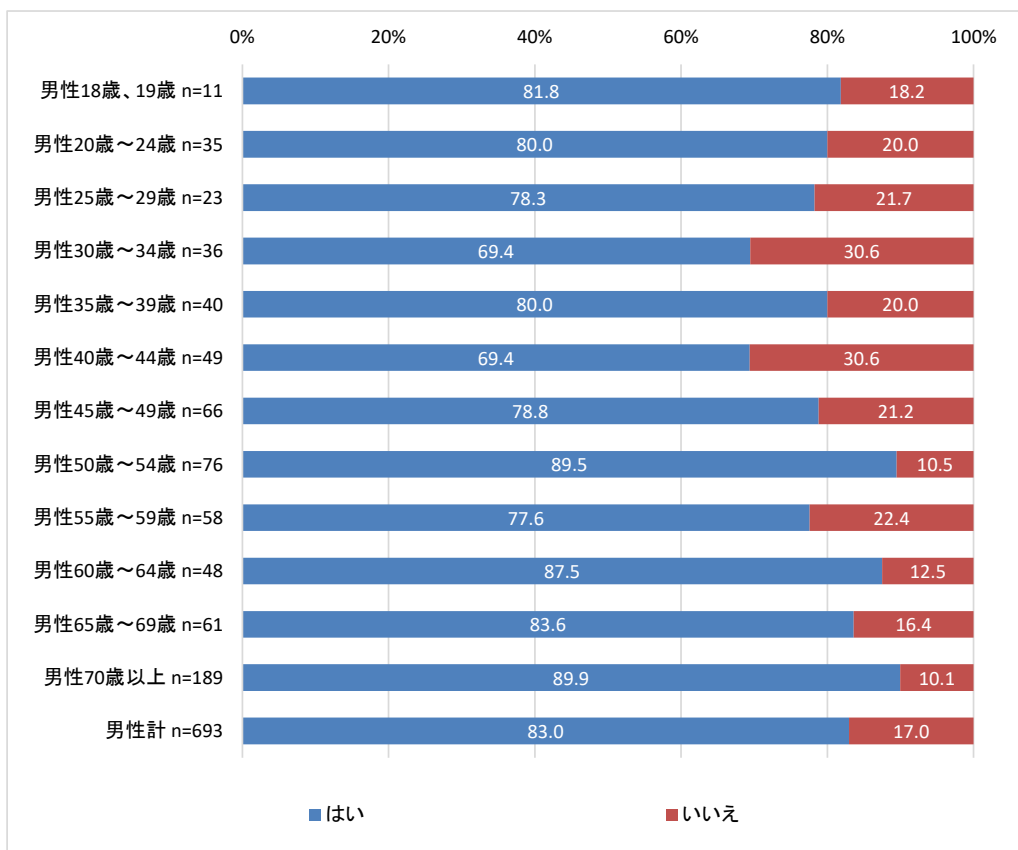
○まちに愛着を感じている人は約 81%であり、平成 28 年度以降、わずかに減少傾向となっています。

▼まちへの愛着の変化



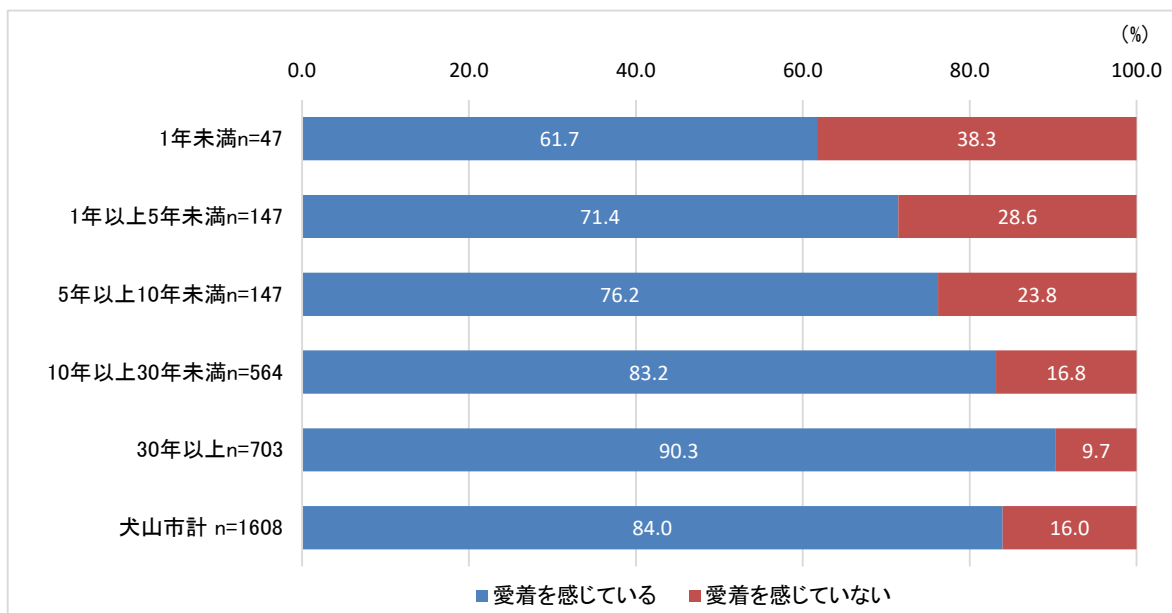
○まちへの愛着については、各年代の人数が少なく断定はできないものの、性別・年代にかかわらず愛着を感じている人は約7～9割と多い傾向がみられます。

▼性別×年齢×まちに愛着を感じているか



○まちへの愛着については、居住年数に応じて愛着を感じる人は増える傾向がみられます。人数が少なく断定はできないものの、居住年数が1年未満でも約62%が愛着を感じています。

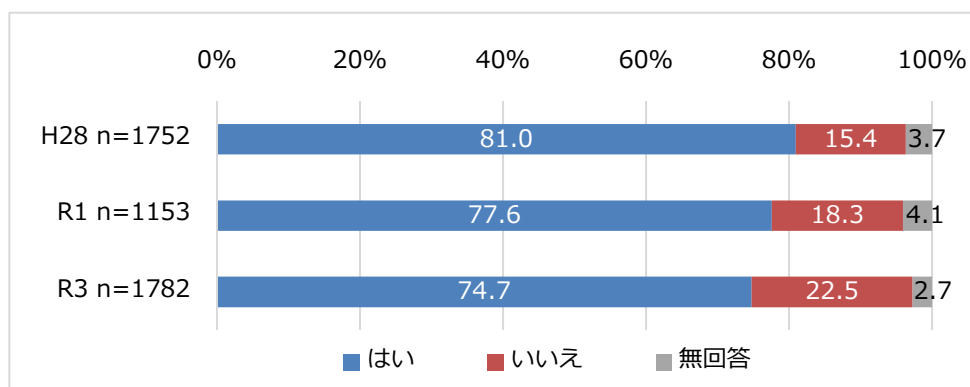
▼通算居住年数×愛着を感じているか



②地域のつながりの実態

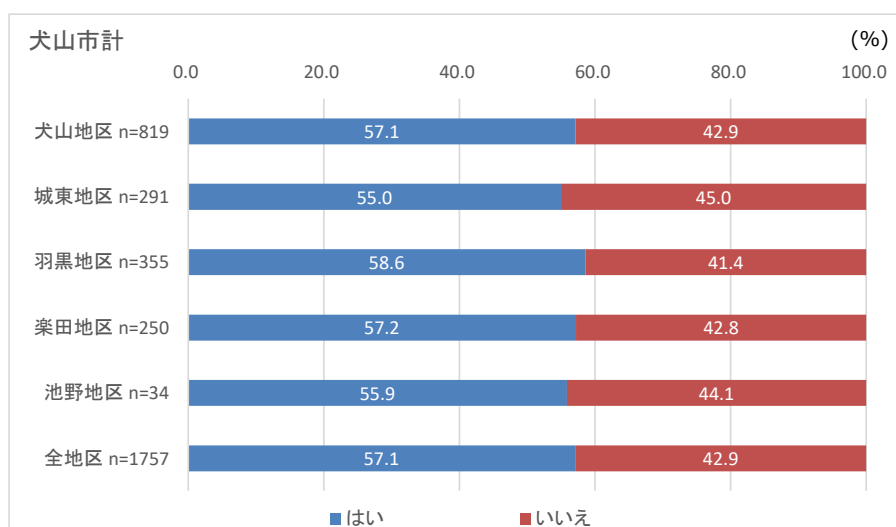
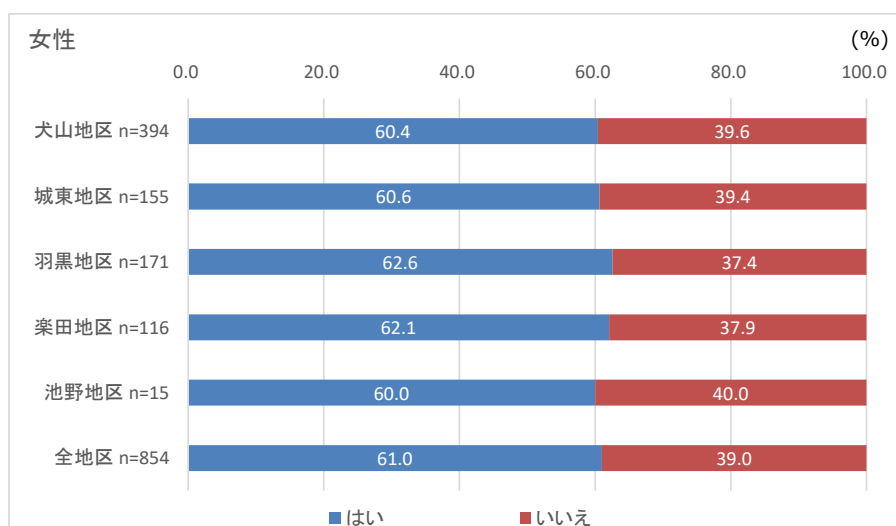
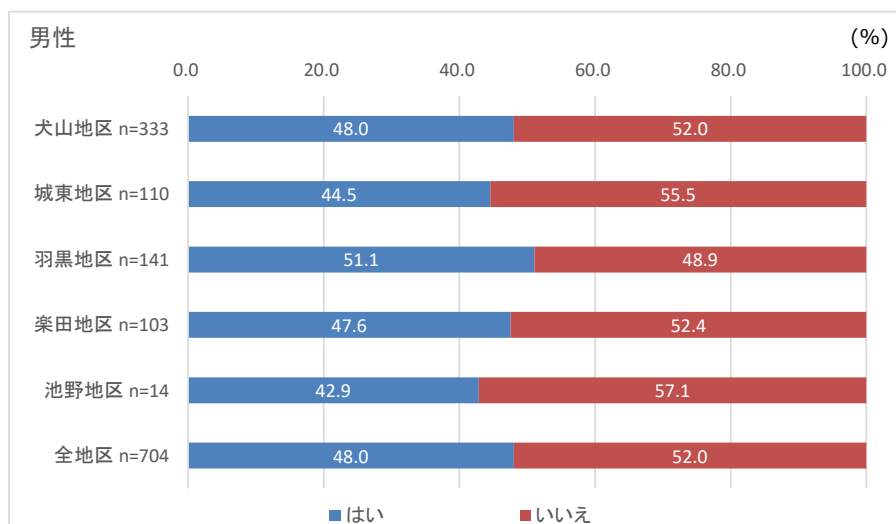
○地域でのつながりや支え合いを大事にしている人は約75%であり、平成28年度以降、減少傾向となっています。

▼地域でのつながりや支え合いの変化



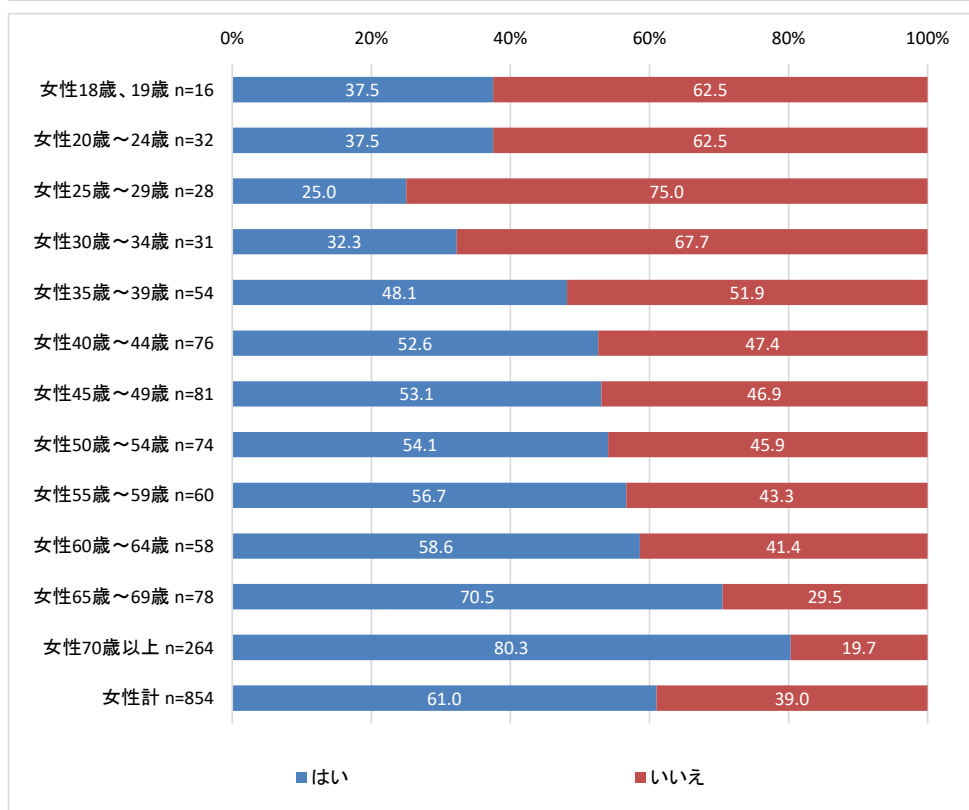
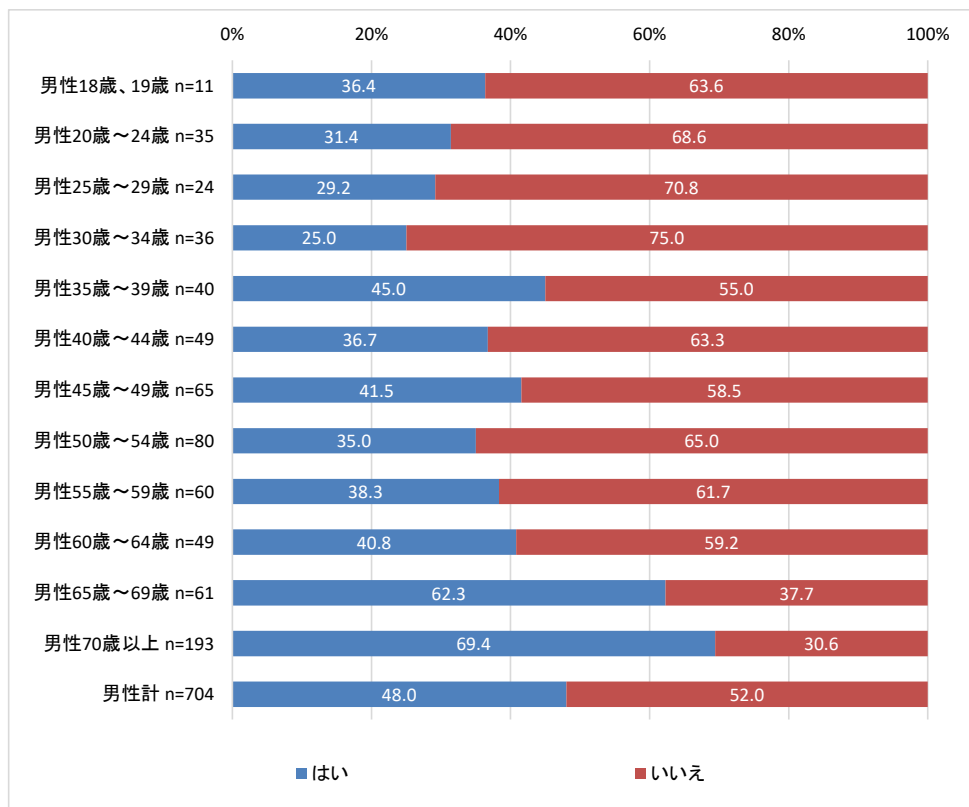
○地域でのつながりや支え合いの実態についてみると、近所で親しくつきあう人がいる人は約57%となっています。地区による大きな差は見られませんが、いずれの地区においても男性に比べて女性の方が多くなっています。

▼性別×地区×近所で親しくつきあう人がいるか



○近所で親しくつきあう人について、性別・年代別にみると、各年代の回答数が少なく断定はできないものの、男性では64歳以下ではつきあう人がいない人の方が多く、65歳以上になるとつきあう人がいる人の方が多い傾向がみられます。女性ではつきあう人がいない人の方が多いのは39歳以下であり、40歳以上になるとつきあう人がいる人の方が多くなっています。

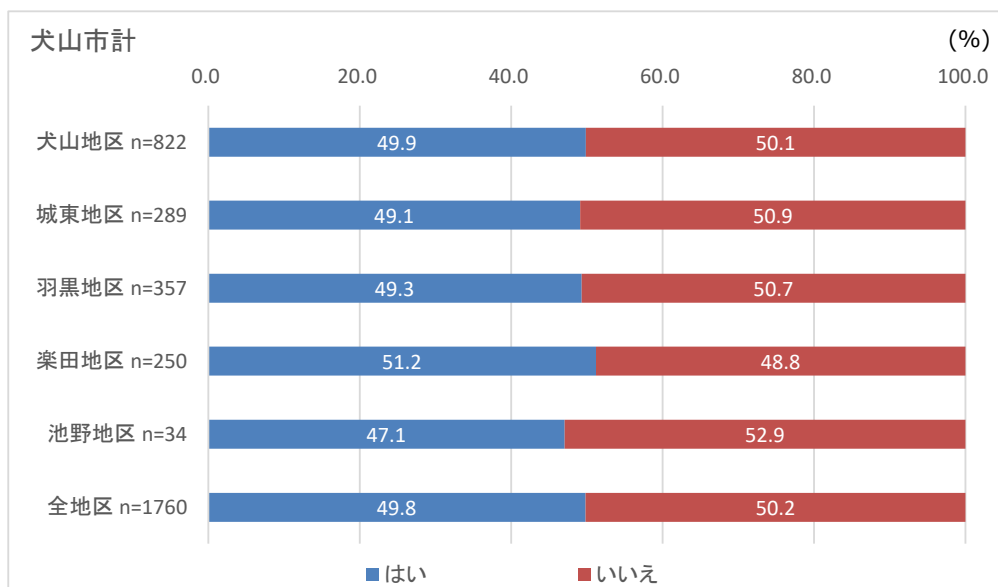
▼性別×年齢×近所で親しくつきあう人がいるか



③地域の活動への参加実態

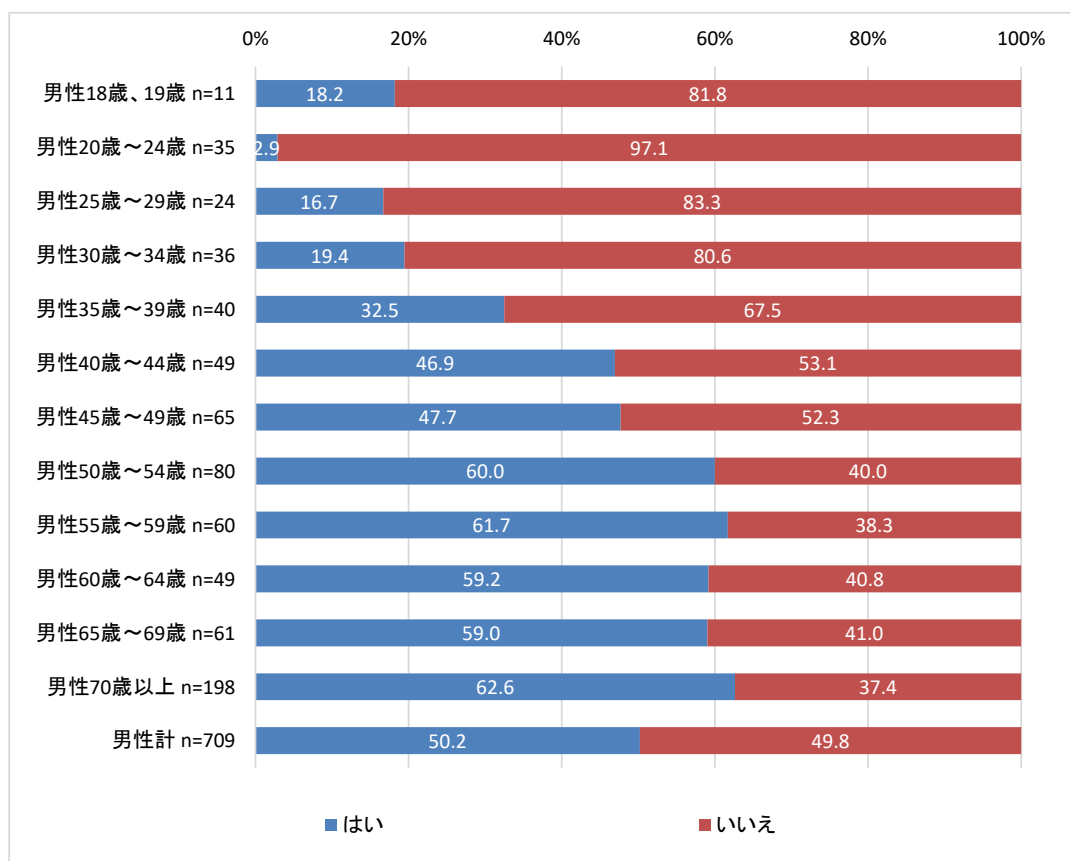
○地域の活動に日頃から参加している人は約 50%で、地区による大きな違いはみられません。

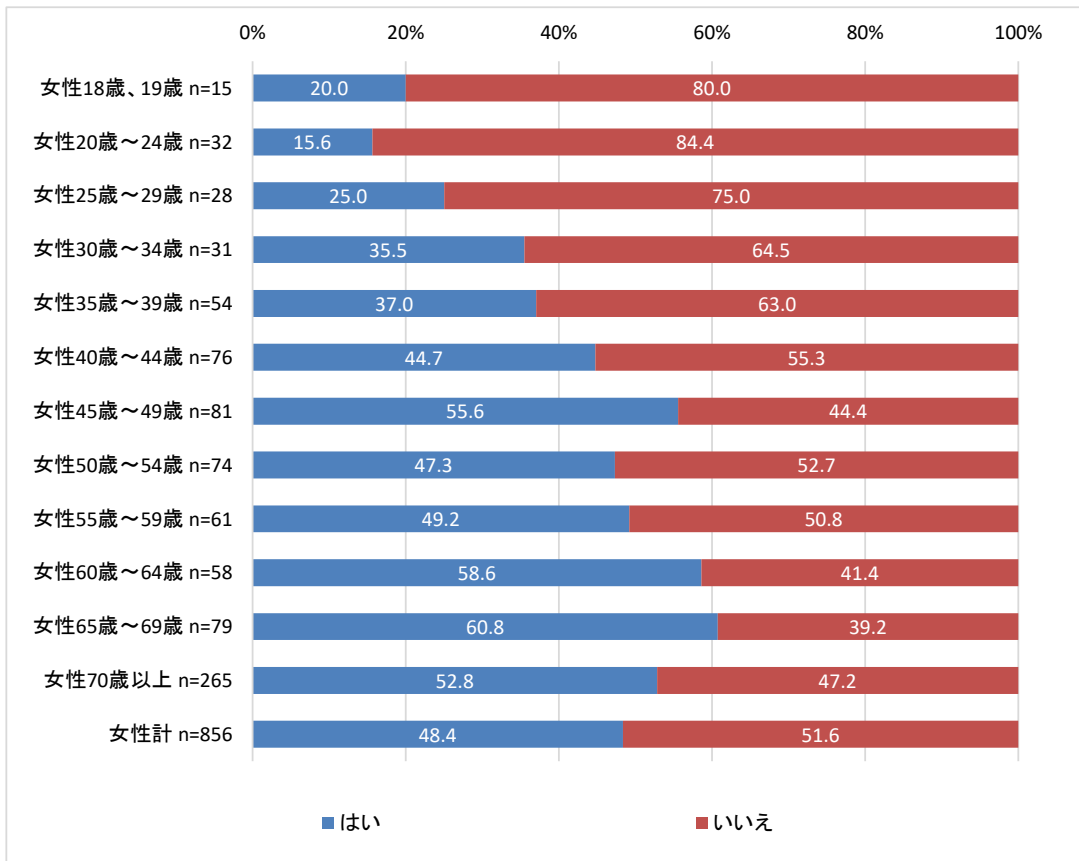
▼地区×地域の活動に日頃から参加しているか



○地域の活動への参加について、性別・年代別にみると、各年代の回答数が少なく断定はできないものの、男性では 49 歳以下では参加していない人の方が多く、50 歳以上になると参加している人の方が多い傾向がみられます。女性では年齢による明確な境界は見られませんが、総じて年齢が上がるにつれて参加する人が多くなる傾向がみられます。

▼性別×年齢×地域の活動に日頃から参加しているか

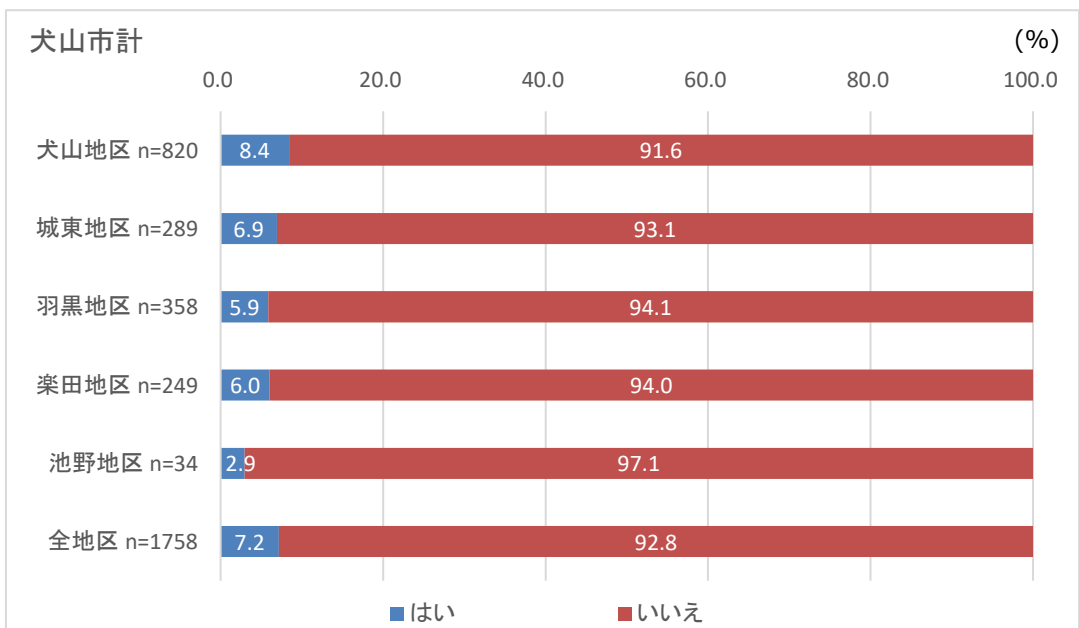




④市民活動への参加実態と意向

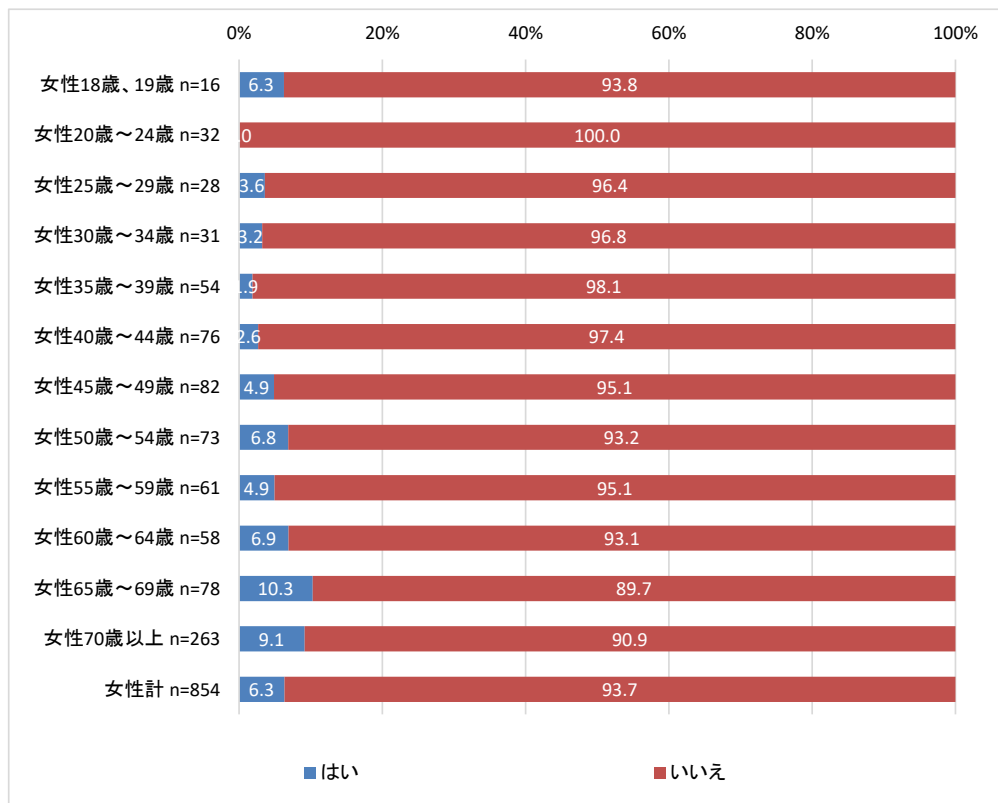
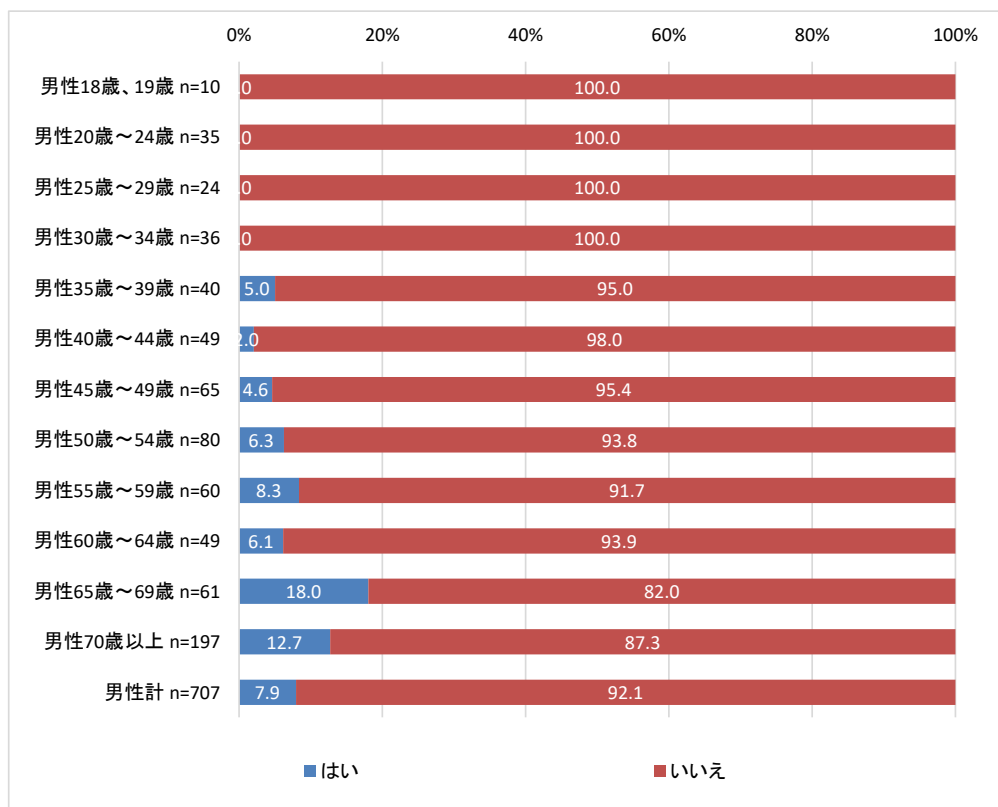
○現在、市民活動を行っている人は約7%で、地区による大きな違いはみられません。

▼地区×現在×市民活動を行っているか



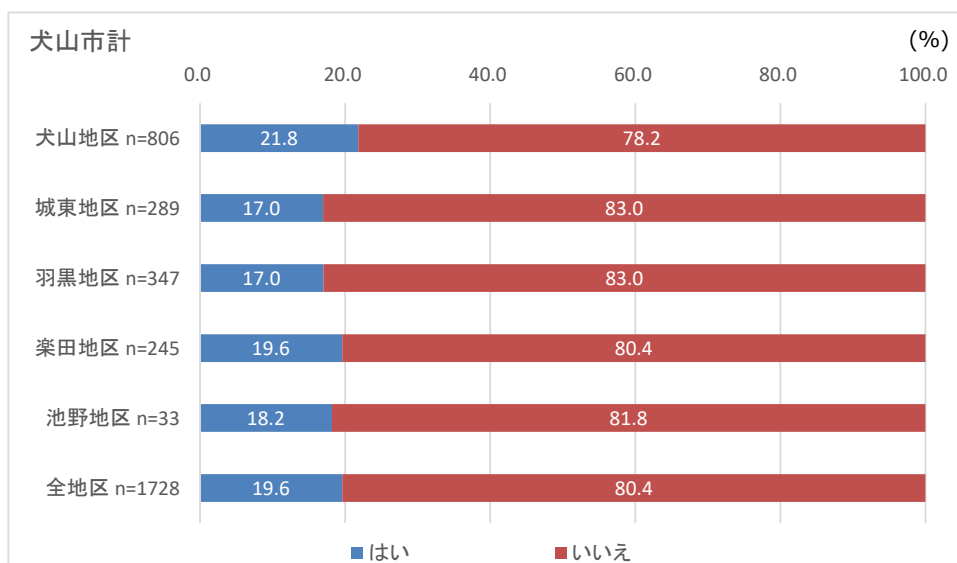
○市民活動の実施について、性別・年代別にみると、各年代の回答数が少なく断定はできないものの、男性の65歳～69歳では約2割となっており、64歳以下に比べて多くなっています。

▼性別×年齢×現在×市民活動を行っているか



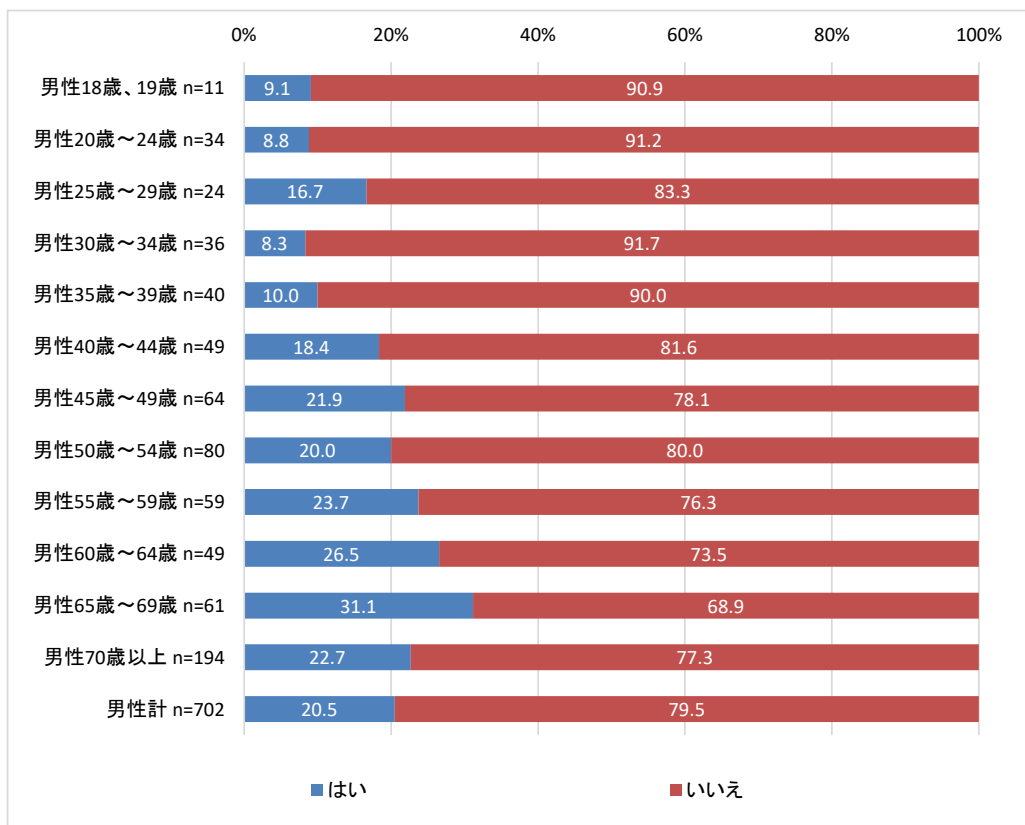
○今後、市民活動を行っていききたい（続けていききたい）と思う人は、約 20%で、地区による大きな違いはみられません。

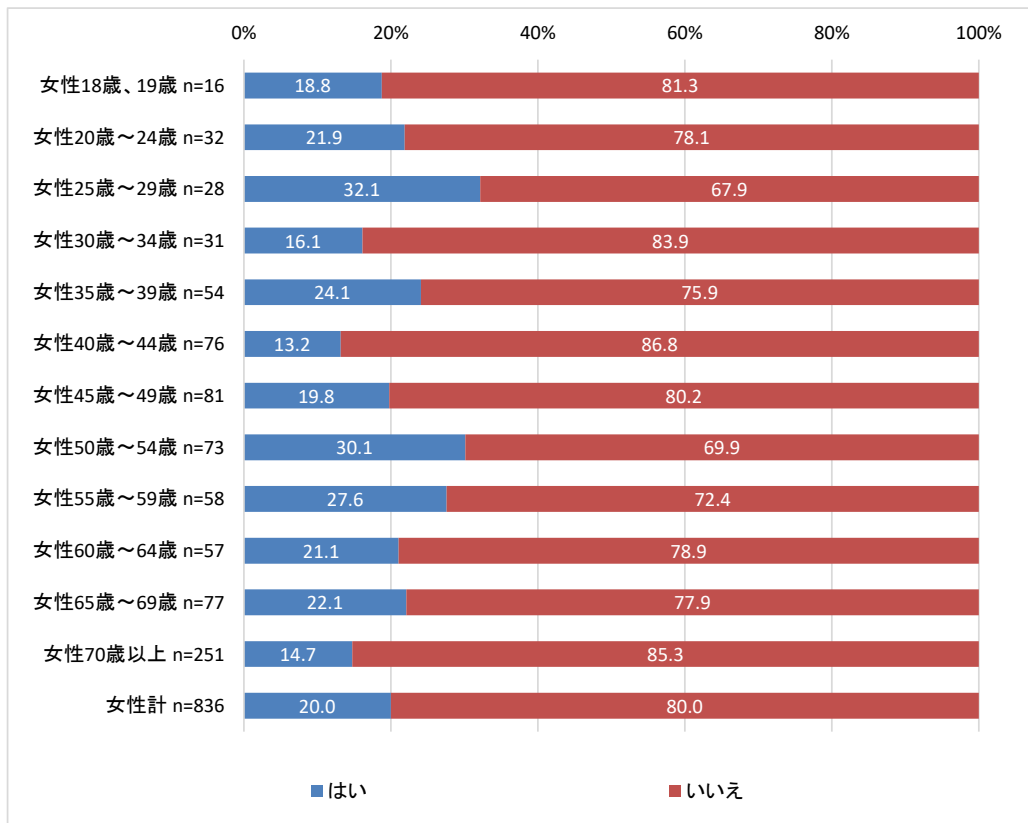
▼地区×今後、市民活動を行っていききたいか（続けていききたいか）



○今後の市民活動の参加意向について、性別・年代別にみると、各年代の回答数が少なく断定はできないものの、男性では年代が上がるにつれて多くなっています。女性では、年代による差異は見られるものの、傾向を捉えることができませんでした。

▼性別×年齢×今後、市民活動を行っていききたいか（続けていききたいか）

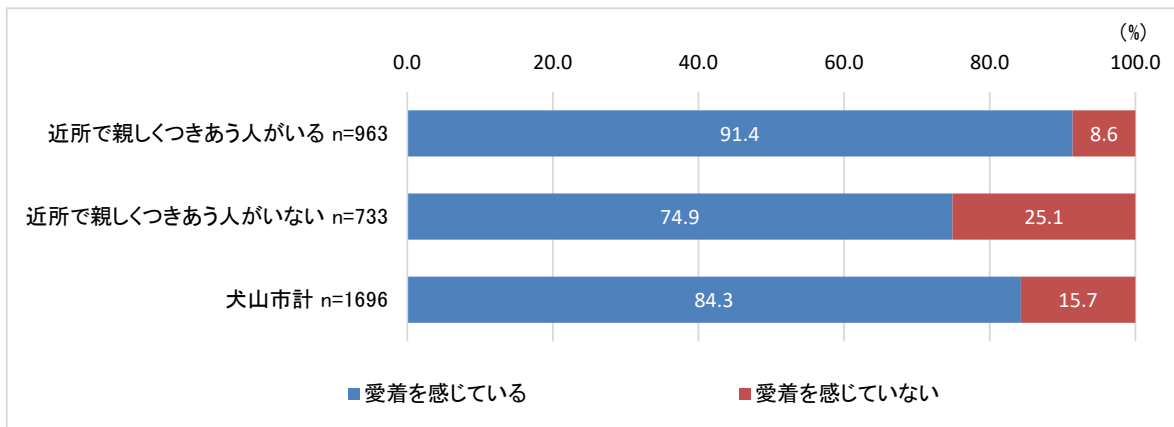




⑤まちへの愛着と地域のつながり等との関係

○まちへの愛着と地域のつながりの実態の関係をみると、近所で親しくつきあう人があるという人の方が、愛着を感じる人が多くなっています。

▼愛着があるか×近所で親しくつきあう人があるか



○まちへの愛着と地域活動への参加実態の関係をみると、地域活動に日頃から参加しているの方が、まちへの愛着を感じる人が多くなっています。

▼愛着があるか×地域活動に日頃から参加しているか

